

展覧会事業

展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

◇収蔵展

世界でも有数の3万点にのぼる写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画した。珠玉の名作を順次紹介すると共に、展覧会をパッケージ化し、館発の他館への巡回展を行った。

① 写真コレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、毎年違ったテーマを立てて収蔵品で構成するコレクション展。今年は「写真のエステ」と銘打ち、約半年にわたって三部構成で連続展覧会を開催した。

② 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

初期写真師を代表する下岡蓮杖の初の回顧展「没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖」展を開催し、図録の代わりとして国書刊行会から同名写真集を一般書籍として出版した。この展覧会は静岡県立美術館(平成26年6月10日(火)～7月21日(月・祝))に巡回する予定である。

日本全国の美術館、博物館、資料館等の公共機関が所蔵する幕末～明治期の写真・資料を調査し、体系化する「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編」展を北海道立函館美術館(平成25年5月18日(土)～7月14日(日))、鶴岡アートフォーラム(平成25年7月20日(土)～8月25日(日))、郡山市立美術館(平成25年11月2日(土)～12月15日(日))に巡回した。

また、長年の調査研究の成果として、「1968年」を中心に日本で「写真」という枠組みがどのように変容し、世界を変容させていったかをたどる展覧会「日本写真の1968」展を開催した。

③ 新規重点収集作家個展

新規重点収集作家である須田一政の個展「須田一政 風の片」展を開催した。図録の代わりとして冬青社から同名写

真集を一般書籍として出版した。この展覧会で須田一政氏が平成26年日本写真協会賞作家賞を受賞した。

④ 映像展の展開

芸術監督として国際的な芸術家集団「ダムタイプ」の制作に携わる一方、映像作家としても活躍する高谷史郎の幅広い活動を紹介する美術館における初個展「高谷史郎 明るい部屋」を開催した。

◇自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に用い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を、国際動向もふまえて実施した。また、国内外の美術館等と共同企画し、他館への巡回展を実施した。

① 中堅作家の個展

ロンドン・ヘルシンキを拠点に、国際的に活躍の著しい米田知子のミッド・キャリア展「米田知子 暗なきところで逢えれば」展を開催した。図録の代わりとして平凡社から同名写真集を一般書籍として出版した。この展覧会で米田知子氏が平成25年度(第64回)芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した。なお、この展覧会は姫路市立美術館(平成26年9月13日(土)～11月3日(月・祝))に巡回する予定である。

また、大正から昭和初期にかけて活躍し、初期日本山岳写真史にその名を刻む冠松次郎と穂苅三寿雄の偉業を検証する「黒部と槍 冠松次郎と穂苅三寿雄」展を開催した。

② 国際展

生涯アマチュア精神を貫いた日仏の二人の写真家の展覧会「植田正治とジャック・アンリ・ラルティエール 写真であそぶ」展を、ジャック・アンリ・ラルティエール財団との共同企画により開催した。

③ 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるシリーズ。第12回として、「日本の新進作家 vol.12 路上から世界を変えていく」展を開催した。

④ 恵比寿映像祭

「東京文化発信プロジェクト」の基幹事業である恵比寿映像祭。第6回目となる今年は「トゥルー・カラーズ」を総合テーマに、全館を使い、展示、上映、野外展示、シンポジウム、レクチャー、ライブ・イベント、地域連携プロジェクトなど、多彩なプログラムを実現した。

◇誘致展

写真月間との共催や、写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

展覧会事業
収蔵展

夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史
北海道・東北編

Dawn of Japanese Photography Hokkaido and Tohoku

期 間 平成25年3月5日(火)～5月6日(月・休)
32日間(平成25年4月1日からの開館日数)
主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／
美術館連絡協議会
協 賛 ライオン／清水建設／大日本印刷／損保ジャパン／
日本テレビ放送網
協 力 日本大学藝術学部
出品作品数 502点(会期中展示替えあり)
巡 回 北海道立函館美術館(平成25年5月18日(土)～7
月14日(日))、鶴岡アートフォーラム(平成25年7月
20日(土)～8月25日(日))、郡山市立美術館(平成
25年11月2日(土)～12月15日(日))

日本全国の美術館、博物館、資料館等の公共機関が所蔵する幕末～明治期の写真・資料を調査し、体系化する初めての試み「知られざる日本写真開拓史」の第四弾。幕末の開国と時を同じくして日本にもたらされた「写真」は、西洋技術の象徴であった。横浜や長崎などが開港し、訪日する写真師との関わりから、江戸の鵜飼玉川や開港地の上野彦馬・下岡蓮杖など、日本人の写真師が各地に現れ、西洋的近代化へ向かう社会情勢とともに、その技術はさらに次の世代へと伝承されていく。本展では、北海道・東北の公開機関を持つ約2,400の施設へ収蔵調査を行い、所蔵が明らかになった多くの未公開作品、当館収蔵作品および協力機関である日本大学藝術学部の収蔵作品によって、関東編、中部・近畿・中国地方編に引き続き、現存する貴重なオリジナルの写真作品・資料をくであい〈まなび〉〈ひろがり〉三部構成で展覧した。



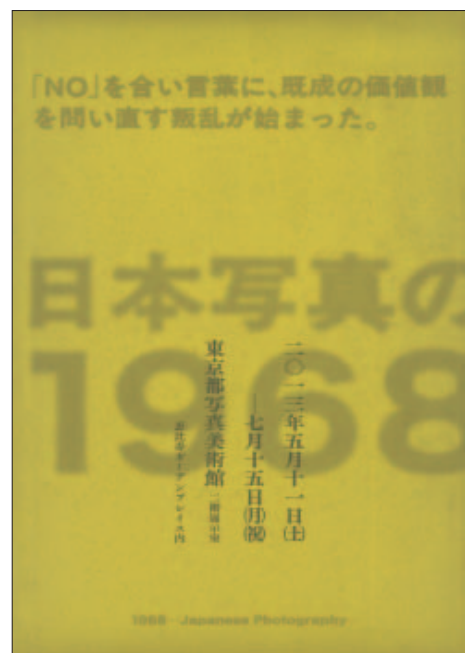
日本写真の1968

1968-JAPANESE PHOTOGRAPHY

期 間 平成25年5月11日(土)～7月15日(月・祝)
57日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
出品作品数 293点

政治、社会、文化など、世界中のあらゆる領域でこれまでの枠組みに対して新たな行動が勃発した1960年代後半。写真においても、近代写真が構築した「写真」の独自性とそれを正当化する「写真史」への問いかけが始まった。特に1968年は、今日の「写真」の社会的な枠組みを考える上で重要な出来事が集中して現れた。

本展では、「写真100年－日本人による写真表現の歴史展」、「コンボラ写真」、「プロヴォークー思想のための挑発的資料」、「写真の叛乱」の4つのキーワードから展覧会を構成し、「1968年」を中心にして、1966～74年の間で、日本で「写真」という枠組みがどのように変容し、世界を変容させていったかをたどり、「写真とは」「日本とは」「近代とは」を探った。



平成25年度 東京都写真美術館コレクション展 写真のエステ—五つのエレメント

Collection Exhibition 2013
The Aesthetics of Photography - Five Elements

期 間 平成25年5月11日(土)～7月7日(日)
50日間

主 催 東京都 東京都写真美術館

協 賛 凸版印刷株式会社

出品作品数 164点

「写真の美しさはどこにある？」という問いかけから出発して、当館コレクションをもとに、企画者がそれぞれに感じる写真の美の在り方を三部構成で紹介する収蔵展の第一部。「光」「反映」「表層」「喪失感」「参照」というエレメントを手がかりとして、19世紀の初期写真から現代写真までを「エステ」=「感性」に訴えかける作品表現として紹介した。

平成25年度 東京都写真美術館コレクション展 写真のエステ—写真作品のつくりかた

Collection Exhibition 2013
The Aesthetics of Photography - The Making of Photographic works

期 間 平成25年7月13日(土)～9月16日(月・祝)
57日間

主 催 東京都 東京都写真美術館

協 賛 凸版印刷株式会社

出品作品数 168点

「写真の美しさはどこにある？」をテーマとした「写真のエステ」展。「エステ」とは「aesthetics (エステティクス)」の略語で「美学」を意味する。第二部となる「写真のエステ—写真作品のつくりかた」では、作品と関わることによって美を獲得する「鑑賞」を中心軸に、写真における美しさとは何によってつくられるのかに着目し、「アングル」「焦点」「光のあつかい」「暗室作業」の4つの構成要素を手掛かりに、コレクションの中から選りすぐられた168点を展覧した。



平成25年度 東京都写真美術館コレクション展 写真のエステーコスモス 写された自然の形象

Collection Exhibition 2013

The Aesthetics of Photography - Cosmos-Natural Phenomena in Photographs

期 間 平成25年9月21日(土)～11月17日(日)
50日間

主 催 東京都 東京都写真美術館

協 賛 凸版印刷株式会社

出品作品数 119点

「写真の美しさはどこにある？」をテーマに、企画者が感じる写真の美の在り方を探る「写真のエステ」第三部では、写された対象物の美しさに着目した。私たちは、時に木について、単に樹木というだけでなく、ある種のシンボルや神木として接することがある。また、火については熱狂や祭り、灯り、温もり、生命力、土は作物や結末、金は産業や欲望、水は潤いや生命の源、浄化といったように、自然界のあらゆるものに多くの意味やイメージを付与している。それは私たちが古くから受け継いできた知恵や経験、思想に基づいており、自然に接するときのひとつの前提ともなっている。中国の古い思想を源にしながら、私たちの生活に馴染み深い森羅万象を区分する方法―木・火・土・金・水という5つの元素を手がかりに、当館の豊富なコレクションから、それぞれの元素が持つ自然の美しさ、イメージ、心性など人々の営みや経験から導かれる美しさを紹介した。



須田一政 風の片

Suda Issei nagi no hira - fragments of calm

期 間 平成25年9月28日(土)～12月1日(日)
56日間

主 催 東京都 東京都写真美術館／産経新聞社

後 援 サンケイスポーツ／タ刊フジ／
フジサンケイビジネスアイ／iza!/
SANKEI EXPRESS

協 賛 株式会社ニコン／
株式会社ニコンイメージングジャパン

協 力 富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

出品作品数 215点

現実の裂け目から異空間を覗き見るような写真表現で、1970年代から国内のみならず、オーストラリア、ニューヨーク等でも紹介され、国際的に高い評価を得ている須田一政の個展。

1940年、東京神田に生まれた須田は、洒落な視点と卓越した技術で人間、生活、街などの裏側へと視線を誘うような写真群を1960年代から発表してきた。本展覧会は、東京都写真美術館が新規重点収集作家として収集し続けてきた代表作<風姿花伝><物草拾遺><東京景>に加え、初期作品の<紅い花><恐山へ>を加え、さらに写真家活動50周年を迎える本年、制作した最新作<風の片>、いずれも精緻な銀塩プリント215点で構成した。

「風（なぎ）」という風が止まる時間特有の感触に似た、日常と非日常を往還するような作家の視線が、一片（ひとひら）の写真となって降り積もっているかのような写真群から、今はなき風景、人物像や、昭和から現在へと引き継がれる日本の風俗への特異な作家の視点が浮き彫りとなった。



高谷史郎 明るい部屋

Takatani Shiro Camera Lucida

期 間 平成25年12月10日(火)～平成26年1月26日(日)
39日間

主 催 東京都 東京都写真美術館／産経新聞社

協 賛 凸版印刷株式会社

協 力 NECディスプレイソリューションズ株式会社／
山口情報芸術センター[YCAM]／comos-tv

後 援 サンケイスポーツ／タ刊フジ／
フジサンケイビジネスアイ／ iza!／
SANKEI EXPRESS

出品作品数 47点

国際的な芸術家集団「ダムタイプ」の制作に携わる一方、映像作家としても活躍する高谷史郎の幅広い活動を紹介する美術館における初個展。写真をあらゆるメディア、映像表現の原点とする高谷が2008年に発表した、ロラン・バルトの写真論に端を発するパフォーマンス《明るい部屋》を出発点に、新作5点を含む写真映像作品計47点を展示。「明るい部屋」を意味する光学装置カメラ・ルシダに触発された作品《Camera Lucida》から、〈Topograph〉〈Toposcan〉シリーズの新作に至るまで、写真と映像を横断する作品群を発表。またバルトの著書に関連した美術館収蔵の写真作品も展示した。



没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖

A retrospective on Shimooka Renjō
100 years after his death

期 間 平成26年3月4日(火)～5月6日(火・休)
24日間 (平成26年3月31日までの開館日数)

主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞／
美術館連絡協議会

協 賛 ライオン／清水建設／大日本印刷／損保ジャパン／
日本テレビ放送網

協 力 下田市商工会議所

出品作品数 280点

巡 回 静岡県立美術館
(平成26年6月10日(火)～7月21日(月・祝))

日本の初期写真史において最も重要な写真師の一人である下岡蓮杖(1823-1914)が制作した写真作品、日本画作品を中心に展覧し、日本写真文化の礎を築いた蓮杖の足跡をたどる大回顧展。本展は、その長命な生涯について、最も体系的に記された口述筆記『写真事歴』(山口オー太郎筆記、1894年、写真新報社)を軸に下岡蓮杖の生涯を実作品の展示によってひもとく、日本初の試みとなった。



展覧会事業
自主企画展

アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密
Erwin Blumenfeld: a hidden ritual of beauty

期 間 平成25年3月5日(火)～5月6日(月・休)
32日間 (平成25年4月1日からの開館日数)

主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
館／朝日新聞社

協 賛 株式会社資生堂／凸版印刷株式会社／
東京都写真美術館支援会員

協 力 セレクションD. P. I.

出品作品数 290点

『ハーバース・バザー』や『ヴォーグ』等のファッション誌を中心に、第一次、第二次世界大戦を挟んで活躍した、アーウィン・ブルーメンフェルド (1897-1969年、独→米) の日本初の個展。欧米ではファッション・ポートレイト全盛期の旗手としてボンビドー美術館 (パリ、1981年)、パービカンセンター (ロンドン、1996年) の個展などで高い評価を得ているブルーメンフェルドだが、重要な作品が各国の美術館に散在していることから、これまで日本国内で全貌を紹介する機会がなかった。今回、ブルーメンフェルドのご遺族、関係者によって、1930年代のヴィンテージ・プリントや作家自身が選出した名作100点、カラー復元された美しいファッション写真などが集められた。本展覧会はパリのジュ・ドゥ・ポーム美術館に先じ、それらの資料から独自の視点で構成した290点の作品群を展示した。シュルレアリスムからヌード、ファッションまで網羅し、多くの写真家に影響を与えたブルーメンフェルドの表現だが、そこには二大戦に翻弄され、時代に応じて活動の場を選択せざるを得なかった作家の苦悩が存在する。作家の人生、活動を通し、時代背景、思想などに視点を向け、美しい表現の根底にある精神、華やかな表現に隠された美の秘密に迫った。



米田知子 暗なきところで逢えれば
YONEDA TOMOKO

We shall meet in the place where there is no darkness

期 間 平成25年7月20日(土)～9月23日(月・祝)
57日間

主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
館／読売新聞社／美術館連絡協議会

助 成 芸術文化振興基金

特別協賛 株式会社資生堂／
富士フイルムイメージングシステムズ株式会社

協 賛 ライオン株式会社／清水建設株式会社／
大日本印刷株式会社／
株式会社損保ジャパン／日本テレビ放送網／
東京都写真美術館支援会員

協 力 株式会社写真弘社／公益財団法人東京都歴史文化財
団トーキョーワンダーサイト

出品作品数 68点

巡 回 姫路市立美術館
(平成26年9月13日(土)～11月3日(月・祝))

ヨーロッパを拠点に、ヴェネチア・ビエンナーレなど国内外の美術展に選出されている日本を代表する作家である米田知子の個展。彼女の作品は現実に見えている対象だけではなく、物や場所が持つ記憶や歴史を、その作品に投影させている。写真を見るという行為を通して、鑑賞する側に実際に見えているものの本質を改めて問いかけている。本展では彼女の20数年におよぶ作家活動の中から代表作のシリーズ(「Scene」, 「見えるものとみえないものあいだ」など)を中心に、この展覧会のために制作した新作(「サハリン島」、映像作品「暗なきところで逢えれば」)を加え、現在進行形の米田知子の世界を紹介した。



植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ —写真であそぶ—

Ueda Shoji & Jacques Henri Lartigue
Play with Photography

期 間 平成25年11月23日(土・祝)～平成26年1月26日(日)
53日間
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
館／朝日新聞社
特別協力 ジャック・アンリ・ラルティエグ財団
協 賛 東京都写真美術館支援会員
後 援 在日フランス大使館／
アンスティチュ・フランセ日本
出品作品数 188点

生涯アマチュア精神を貫き、撮ることを純粋に楽しんだ植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグの2人展。

本展は、偉大な写真家の業績を堪能するだけでなく、ふたりの作品が、まさに近代写真表現の成熟期において、いかに独特であったか、そして時代性を捉えていたかを、個別的かつ相対的に検証した。日本とフランスという文化の違いを超えて、「人間にとって写真とはいったい何か」という問いにふたりの写真表現から見ようとした。

フランスのジャック・アンリ・ラルティエグ財団との共同企画により、ラルティエグがフランスに遺した豊富なコレクションと、東京都写真美術館が重点的に収集した植田のコレクションを中心に紹介した。



日本の新進作家vol.12 路上から世界を変えていく

every stroller can change the world.
Contemporary Japanese Photography vol.12

期 間 平成25年12月7日(土)～平成26年1月26日(日)
41日間
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
館／東京新聞
協 賛 凸版印刷株式会社 東京都写真美術館支援会員
技術協力 キヤノン株式会社
出品作品数 127点

本展は「路上から世界を変えていく」をテーマとして、世界と向かい合う行為を象徴する「路上」という場所に焦点をあて、2010年代日本の新たな視点や表現を切り開く現代作家たち—大森克己、糸崎公朗、鍛冶谷直記、林ナツミ、津田隆志の五人を取り上げた。「路上」を舞台として多様な写真表現を展開する作品群をとおして今という時代について考察し、日常の中から出発して、ものの見方、感じ方、さらには世界観を変えていく感性や創造力の可能性を探求した。



第6回恵比寿映像祭「トゥルー・カラース」

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2014: TRUE COLORS

期 間 平成26年2月7日(金)～2月23日(日)
15日間

主 催 東京都／東京都写真美術館・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)／日本経済新聞社

共 催 サッポロ不動産開発株式会社

後 援 J-WAVE 81.3FM／オーストラリア大使館／駐日韓国大使館 韓国文化院

協 賛 ケベック州政府在日事務所／台北駐日経済文化代表処 台北文化センター／サッポロビール株式会社／東京都写真美術館支援会員

協 力 イスラエル大使館／スロベニア文化省／NECディスプレイソリューションズ株式会社／東芝ライテック株式会社／東芝エルティエエンジニアリング株式会社／マックレイ株式会社／KyotoDU／びあ株式会社／株式会社北山創造研究所／株式会社トリプルセブン・インタラクティブ／株式会社ロボット

出品作品数 展示作品：29点／上映作品：61点／オフサイト作品：8点／ライブ作品：1点(計99作品)

「トゥルー・カラース」を総合テーマに、25カ国の国と地域より85名の作家およびゲストの出品・参加を受け、全館を用いて展示、上映、シンポジウム、レクチャー、トークなど多彩なプログラムを展開した。また隣接する恵比寿ガーデンプレイスセンター広場における野外展示プロジェクトや、ザ・ガーデンルームを会場としたライブ・イベント、さらに恵比寿近隣地域の各文化発信拠点との連携による共催プログラムも実施した。

【展示】

出品作家：キムスージャ／朝海陽子／ジョウシン・アーサー・リュウ／スーザン・ヒラー／分藤大翼／川瀬慈／田村友一郎／シャジア・シカンダー／下道基行／アンリ・サラ／シトー・ジェラチ／ナルパティ・アワング a.k.a. オムレオ／タリン・ギル&ピラー・マタ・デュボン／ハッサン・カーン／西京人(小沢剛、チェン・シャオジョン、ギムホンソック)／カミュー・アンロ／アークティック・パースペクティブ・イニシアティブ(マルコ・ベリハン、マシュー・ピーダーマン)／デイヴィッド・ホックニー

【オフサイト展示】

出品作家：西京人(小沢剛、チェン・シャオジョン、ギムホンソック)

【上映】

プログラム：①アンリ・サラ特集—それぞれの色 ②ムーヴィング・イメージゾーン・イースト(プログラマー：ソ・ジンソク) ③「Media/Art Kitchen - Reality Distortion Field」上映プログラム—恵比寿映像祭エディション(プログラマー：シャーマイン・トウ、岡村恵子) ④知られざるストリート・エスノグラフィ―《異郷生活者たち》(プログラマー：森宗厚子) ⑤スペシャル上映：ラヴ・ディアス《北(ノルテ)―歴史の終わり》 ⑥スペシャル上映：ワン・ビン(王兵)《収容病棟》ジャパンプレミア ⑦映像人類学と無形文化＝音楽(プログラマー：川瀬慈) ⑧映像人類学とアイデンティティ(プログラマー：川瀬慈) ⑨マティアス・ピニエロ《盗まれた男》 ⑩《生きものの記録》から考える：黒澤明《生きものの記録》+ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ《3.11後の生きものの記録》 ⑪《アウト・イン・ザ・ダーク》境界の二人 ⑫真

利子哲也《あすなる参上!》(プログラマー：森宗厚子) ⑬3.11以降の新しい関係性(身分) ⑭電子書籍化の波紋《グーグルと知的財産》(プログラマー：森宗厚子) ⑮おくりもの—藤幡正樹 Expanded Animation Works(プログラマー：松井茂、田坂博子)

【イベント】

プログラム：ライブ・イベント | 恵比寿演舞場 ～「踊る」とは何か～(出演：川村巨平斎／大石始／AFRA／桜井響／久保田麻琴／東野祥子／東京鹿踊 企画監修：清宮陵一) シンポジウムA | Yebisuラウンドテーブル トゥルー・カラース ー多様な世界の見つめ方ー(パネリスト：毛利嘉孝／下道基行／アークティック・パースペクティブ・イニシアティブ [マルコ・ベリハン、マシュー・ピーダーマン] / 川瀬慈 モデレーター：北澤ひろみ) シンポジウムB | 電子書籍化の波紋 ーデジタルコンテンツとしての書籍(パネリスト：エリック・サダン／エルヴェ・ゲマール／ドミニク・チェン／福井健策／角川歴彦 討論司会：神谷浩司 総合司会：北澤ひろみ) レクチャーC | アジアのアートシーンにおける映像表現の現在(ゲスト：ソ・ジンソク／服部浩之／岡村恵子) レクチャーD | Fシネマ・プロジェクトフィルムから映像の現在を考える(ゲスト：岩崎ゆう子／とちぎあきら／樋口泰人)

【ラウンジトーク】

ゲスト：タリン・ギル&ピラー・マタ・デュボン／ジョウシン・アーサー・リュウ／田村友一郎／西京人(小沢剛、チェン・シャオジョン、ギムホンソック) / ナルパティ・アワング a.k.a. オムレオ／下道基行／真利子哲也、森宗厚子／分藤大翼／朝海陽子／ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ／石内都、松平盟子

【地域連携プログラム】

参加施設・団体：公益財団法人日仏会館／NADiff a/p/a/r/t/MEM/G/P gallery/TRAUMARIS/TOKIO OUT of PLACE/MA2Gallery/Gallery工房親/amu/NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT/エイト] / gift_lab/waitingroom/POST (IimArt) / LIBRAIRIE6/MuCuL

※本事業は、東京文化発信プロジェクト事業の一環として開催した。



～黒部と槍～ 冠松次郎と穂刈三寿雄
 Valleys and Peaks : Kanmuri Matsujiro and Hokari Misuo

期 間 平成26年3月4日(火)～5月6日(火・休)
 24日間 (平成26年3月31日までの開館日数)
 主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
 館／読売新聞社／美術館連絡協議会
 後 援 公益社団法人日本山岳会／黒部市／松本市
 特別協賛 大伸社
 協 賛 ニコン／ニコンイメージングジャパン／ライオン／
 清水建設／大日本印刷／損保ジャパン／日本テレビ
 放送網／東京都写真美術館支援会員
 協 力 山と溪谷社
 出品作品数 134点

戦前のわが国の登山史上もっとも著名な登山家の一人であり、黒部溪谷の地域探査や山岳紀行文で知られる冠松次郎（1883-1970）と、北アルプ스에서最初期に山小屋経営を行い、山岳写真や槍ヶ岳を開山した播磨上人の研究でも知られる穂刈三寿雄（1891-1966）。ともに、日本における山岳写真のパイオニアと呼ばれた彼らの写真には、今も変わらない厳しい山の姿を見る事ができるが、また一方で、現代では見ることのできない失われた自然も多く写されている。多くの人びとを魅了してきた「黒部溪谷」と「北アルプス・槍ヶ岳」。本展覧会では、日本が世界に誇るこれらの美しい自然をテーマに、現存するオリジナル・プリントと多彩な資料で、初期日本山岳写真史にその名を刻む二人の偉業を検証した。



展覧会事業
誘致展

マリオ・ジャコメリ写真展
THE BLACK IS WAITING FOR THE WHITE

期 間 平成25年3月23日(土)～
5月12日(日)
37日間(平成25年4月1日から
の開館日数)
主 催 青幻舎/NADiff/PARCO
共 催 東京都写真美術館
後 援 イタリア大使館/
イタリア文化会館

アドリア海に面したイタリア・マルケ州に生まれ、その詩的で深奥な作風で何世代もの写真家たちに影響を与えたマリオ・ジャコメリ(1925-2000)。日本では、2008年に東京都写真美術館において初めて本格的に紹介され、「黒」と「白」とを見事に操り、強烈なハイ・コントラストで「死」と「生」に立ち向かい、孤高の写真表現で現実を抽象した作品群は、多くの人々の心をとらえた。2回目となる本展では、老人たちの動作を記録した「ホスピス」、農夫たちの暮らしに自己の回帰を求めた「スカンノ」のほか、「神学生たち」、「大地」などの代表作を中心に218点で構成。作品相互の関係が響きあうことにより、ジャコメリ理解の深化をはかり、いまま写真表現の未来を指し示しているジャコメリの本質を明らかにする展覧会となった。



日本写真家協会展
第38回写真公募展
2013 THE 38th EXHIBITION OF THE JPS

期 間 平成25年5月18日(土)～
6月2日(日) 14日間
主 催 公益社団法人日本写真家協会
共 催 東京都写真美術館
後 援 文化庁/東京都

1976年に写真文化の振興を目的に、写真愛好家を対象として始まったフォトコンテストの受賞・入選作品展で、今回で38回を迎える。文部科学大臣賞に寺田 功子の「川面」、東京都知事賞に塩見芳隆の「寒の修行」、金賞に伊藤 久幸の「毛織い」、銀賞に藤城 京輔の「雨宿り」、四方 伸季の「島時間」、銅賞に柴原 連の「八重洲横丁」、若林 洋の「断たれた思い」、田村 治義の「寒行」がそれぞれ受賞した。



世界報道写真展2013
WORLD PRESS PHOTO 2013

期 間 平成25年6月8日(土)～8月4日
(日) 50日間
主 催 世界報道写真財団/朝日新聞社
共 催 東京都写真美術館
後 援 オランダ王国大使館/
公益社団法人日本写真協会/
公益社団法人日本写真家協会
協 賛 キヤノンマーケティングジャパン
株式会社

毎年恒例の世界報道写真展。前年に世界中で撮影、報道された写真を対象にした世界報道写真コンテストが毎年、オランダのアムステルダムで開催され、今年は124の国と地域から5,666人の写真家が応募し、10万3481点から選ばれた計54人の写真家の作品を展示した。大賞はイスラエルの空爆で死亡した幼い兄弟の遺体を抱きかかえ、葬儀のためパレスチナ・ガザ地区のモスクに向かう親族を写したポール・ハンセン氏(スウェーデン)の作品。「スポーツニュース」「一般ニュース」の部では、パレスチナとシリアの惨状を写し出した作品が多くを占めることになった。入賞者の1人、Getty Imagesのダニエル・ベレフラク氏(オーストラリア)は東日本大震災から約1年後の2012年3月に、大きな犠牲を払った岩手県の陸前高田市を取材。復興を目指す地域の人々や今も残る爪痕のすさまじさを写真にし、組写真3位に入賞した。今回のコンテストから「スポーツ」や「ポートレート」の部門が拡充され、より応募作品の傾向や表現を反映できるようになった。本展覧会は世界45の国と地域、約100会場で開催され、約200万人の来場者を集めた。



岩合光昭写真展 ネコライオン Iwago Mitsuaki CATS & LIONS

期 間 平成25年8月10日(土)～
10月20日(日) 62日間
主 催 クレヴィス
共 催 東京都写真美術館
協 賛 オリンパス株式会社

地球上のあらゆる地域をフィールドに大自然と野生動物を撮り続ける一方、私たちの身近に暮らすイヌやネコの撮影も継続し、多くの人々を魅了する動物写真家・岩合光昭の個展。

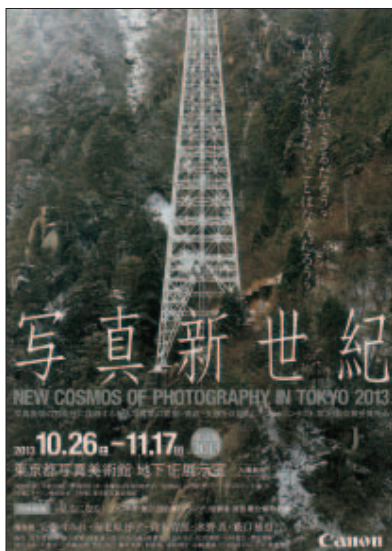
本展は、岩合の取材対象の中でも、とりわけ多くの時間を割いて撮影しているネコとライオンをテーマに企画された。岩合が捉えた人間と共生するネコ、野生に生きるライオンを約180点の作品で展覧し、彼らの共通点や差異を感じることで、私たち人間がどこかに忘れてきてしまった"野生"を浮き彫りにした。



写真新世紀東京展2013 New Cosmos of Photography Tokyo Exhibition 2013

期 間 平成25年10月26日(土)～
11月17日(日) 20日間
主 催 キヤノン株式会社
共 催 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘を目的に1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展では応募人数1,114人のなかから選ばれた優秀賞受賞者5名、佳作受賞者19名の受賞作品を展示した。また同時に前年度グランプリに選ばれた原田要介氏による新作作品展を開催した。関連イベントとして11月8日(金)には1階ホールにて「公開審査会」(審査員：大森 克己(写真家)、佐内 正史(写真家)、榎木 野衣(美術批評家)、清水 稜(写真評論家)、HIROMIX(写真家)(敬称略))を開催した。



第14回上野彦馬賞 九州産業大学 フォトコンテスト受賞作品展 UENO HIKOMA AWARD Exhibition

期 間 平成25年11月23日(土・祝)～
12月1日(日) 8日間
主 催 九州産業大学/毎日新聞社
後 援 文化庁/日本写真芸術学会/
東京都写真美術館/福岡県/
福岡県教育委員会/
RKB毎日放送
スポーツニッポン新聞社
協 賛 キヤノンマーケティングジャパン
株式会社/サイバグラフィック
ス株式会社/株式会社ニコン/
富士フイルム株式会社/
富士フイルムイメージングシステ
ムズ株式会社/
エプソン販売株式会社

わが国の「写真の祖」とも言われる上野彦馬の名を冠した本コンテストは、明日の写真界へのデビューを夢見る若い写真家の発掘と育成を目的に創設した。プロ・アマを問わず、35歳以下の一般部門と高校生・中学生部門を併設しているのが特徴。今回よりファミリー部門を新設。今回は一般部門213点、高校生・中学生部門2,403点、ファミリー部門118点、総計2,734点の作品のうち、大賞をはじめとする入賞作品104点を展示。また、企画展として、オランダ・ライデン大学所蔵「W.Aコックアルバム」より上野彦馬に関する写真50点を展示した。



APAアワード2014
**第42回公益社団法人
 日本広告写真家協会公募展／
 第五回「全国学校図工・美術写真公募展」
 APA AWARD 2014**

期 間 平成26年3月1日(土)～
 3月16日(日) 14日間
主 催 公益社団法人日本広告写真家協会
 (APA)
共 催 東京都写真美術館／
 全国造形教育連盟
後 援 経済産業省／文部科学省／
 文化庁／東京都／東京都教育委員会／
 財団法人 美育文化協会／
 財団法人 教育美術振興会／
 公益社団法人日本写真協会
協 賛 エプソン販売株式会社／オリンパスイ
 メージング株式会社／
 キヤノンマーケティングジャパン株式
 会社／株式会社玄光社／
 株式会社資生堂／
 株式会社ジャスピコ／
 学校法人池田学園東京服飾専門学校／
 株式会社ニコン／
 株式会社ニコンイメージングジャパン／
 一般社団法人日本写真文化協会／株式
 会社ピクトリコ／
 富士フイルムイメージングシステムズ
 株式会社／
 株式会社フレームマン／
 株式会社堀内カラー／
 ライカカメラジャパン株式会社／
 リコーイメージング株式会社
協 力 法人賛助会員各社

公益社団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2014」の入賞・入選作品を一堂に展示した。広告作品部門は平成24年1月1日から平成25年8月31日までの期間に制作発表された印刷物を対象にした作品を、写真作品部門では、「希・のぞみ」というテーマで一般公募された写真の中から、新たな表現へ挑戦した作品を、両部門合計182点を選出し展示した。また、昨年から引き続き特設展示として第五回「全国学校図工・美術写真公募展」で全国の小・中学生から応募された写真を展示した。



**101年目のロバート・キャパ
 —誰もがボブに憧れた**
 Robert Capa, the 101st Year:
 They All Adored Bob

期 間 平成26年3月22日(土)～
 5月11日(日)
 8日間(平成26年3月31日までの
 開館日数)
主 催 朝日新聞社
共 催 東京都写真美術館
企画協力 東京富士美術館
特別協力 マグナム・フォト東京支社
後 援 在日フランス大使館／
 アンステイチュ・フランセ日本／
 ハンガリー大使館
協 賛 野崎印刷紙業

「ボブ」の愛称でも親しまれたロバート・キャパ(1913-54)は、戦争写真家として知られているが、本展では東京富士美術館の所蔵作品を核に、戦場以外でキャパが同時代に生きる人々への共感や友人たちへの思いから撮影した作品を多数紹介。キャパ生誕から101年目にあたり、これからの新たな100年に向けて「プラスワン」をコンセプトに掲げ、キャパの真骨頂ともいえるユーモアや生きる喜びが表れた知られざる作品を中心に、等身大のキャパを紹介するこれまでにない機会となった。





教育普及事業 スクールプログラム

学校児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習ができるように、小学校・中学校・高等学校、大学および各種学校の授業とリンクした「スクールプログラム」を実施している。利用を希望する学校を対象に、展覧会の作品解説、暗室での写真プリントや教材キットを活用した実技的な体験プログラムを行った。大学の博物館学等で来館した学校団

体には、当館の展覧会業務や美術館活動についての概要説明、バックヤード見学等を実施した。

実施回数： 48回（教員研修等をふくむ）

参加者数： 1,006人

平成25年度 スクールプログラム実績

	年月日	時間	団体名	学年	授業区分	人数	プログラム
1	4月17日	水 10:00-12:00	山形県寒河江市立陵南中学校	中学生	修学旅行	6	カメラの仕組みを学ぼう (カメラオプスクラ)
2	5月16日	木 10:00-12:00	宮城県岩沼市立岩沼中学校	中学生	修学旅行	5	カメラの仕組みを学ぼう (カメラオプスクラ)
3	5月28日	火 13:30-15:00	日本大学芸術学部	大学生	学芸員課程	38	概要説明、展覧会鑑賞
4	5月31日	金 13:30-15:00	日本大学芸術学部	大学生	学芸員課程	23	概要説明、展覧会鑑賞
5	6月4日	火 13:00-15:00	愛知県春日丘中学校	中学生	修学旅行	6	現像体験 (フォトグラム)、展覧会鑑賞
6	6月7日	金 10:00-14:00	港区立御田小学校	4年生	図工	67	現像体験 (フォトグラム) [写真のエステール五つのエレメント] 展鑑賞
7	6月20日	木 13:00-14:00	愛知県大口町立大口中学校	中学生	修学旅行	5	カメラの仕組みを学ぼう (カメラオプスクラ) [写真のエステール五つのエレメント] 展鑑賞
8	6月28日	金 13:00-14:00	立教大学文学部	大学生	授業等	10	「日本写真の1968」展鑑賞
9	7月6日	土 10:00-12:00	立教女学院小学校	4-6年生	美術クラブ	10	現像体験 (フォトグラム) [写真のエステール五つのエレメント] 展鑑賞
10	7月10日	水 10:00-12:00	渋谷区立常盤松小学校	6年生	図工	15	現像体験 (フォトグラム)
11	7月14日	日 13:30	高崎経済大学附属高崎高等学校	高校生	写真部	10	[写真のエステール写真作品のつくりかた] 展鑑賞
12	7月23日	火 10:00-12:00	都立府中西高等学校	高校生	美術部	10	現像体験 (フォトグラム) [写真のエステール写真作品のつくりかた] 展鑑賞
13	7月24日	水 13:30-15:30	都立葛飾野高等学校	高校生	美術部	5	現像体験 (モノクロ銀塩ハイブリッド方式)
14	7月25日	木 10:00-12:00	都立世田谷泉高等学校	高校生	写真部	5	現像体験 (モノクロ銀塩ハイブリッド方式)
15	7月25日	木 13:30-17:30	動くフォーラム (財団連携)	小中高教員	教員研修	20	驚き盤、現像体験 (フォトグラム)、概要説明
16	7月30日	火 10:00-12:00	国分寺市立第四中学校	中学生	課外	18	現像体験 (モノクロ銀塩ハイブリッド方式)
17	7月30日	火 12:45-15:30	キッズベースキャンプ	低学年	民間学童	13	現像体験 (フォトグラム) [写真のエステール写真作品のつくりかた] 展鑑賞
18	7月31日	水 10:00-12:00	江東区立深川第四中学校	中学生	課外	17	現像体験 (フォトグラム)
19	7月31日	水 12:45-15:30	キッズベースキャンプ	低学年	民間学童	21	現像体験 (フォトグラム) [写真のエステール写真作品のつくりかた] 展鑑賞
20	8月2日	金 13:30-15:30	立教大学大学院	大学院生	授業等	3	概要説明
21	8月21日	水 14:00-15:30	青山学院大学	大学生	授業等	4	概要説明
22	8月23日	金 19:40-20:40	日本写真芸術専門学校	学生	授業等	10	[米田知子] 展鑑賞
23	8月29日	木 19:40-20:40	日本写真芸術専門学校	学生	授業等	13	[米田知子] 展鑑賞
24	9月18日	水 10:00-12:00	British School in Tokyo	中学生	授業等	7	モノクロ銀塩プリント (ネガフィルム)
25	9月19日	木 12:30-14:30	江戸川区立第三松江小学校	4年生	図工	93	驚き盤、「写真のエステールコスモス」展鑑賞
26	9月27日	金 10:00-12:00	渋谷区立神宮前小学校	5年生	図工	34	現像体験 (フォトグラム)
27	10月1日	火 13:00-15:00	都立高校部活動合同練習	高校生	授業等	29	現像体験 (フォトグラム)
28	10月31日	木 13:30-15:30	御茶の水女子大学附属小学校	5年生	職場訪問	18	学芸員の仕事体験 (展覧会鑑賞と展覧会チラシ作り) [写真のエステールコスモス] 展
29	11月7日	木 13:30-15:30	御茶の水女子大学附属小学校	5年生	職場訪問	20	学芸員の仕事体験 (展覧会鑑賞と展覧会チラシ作り) [写真のエステールコスモス] 展
30	11月8日	金 13:00-14:00	大阪芸術大学	大学生	授業等	52	[写真のエステールコスモス] 展鑑賞
31	11月9日	土 10:00-13:00	京都造形芸術大学 通信部	大学生	授業等	22	概要説明
32	11月13日	水 10:00-12:30	埼玉県朝霞市立朝霞第一中学校	中学生	授業等	23	現像体験 (フォトグラム) [写真のエステールコスモス] 展鑑賞
33	11月13日	水 14:30-16:30	中野区図工部会	教員	教員研修	16	コマ撮りアニメーション
34	11月14日	木 14:00-16:30	日独青少年指導者セミナー	博物館エデュケーター (ドイツ)	研修	7	スクールプログラム概要説明 現像体験 (フォトグラム)
35	11月15日	金 10:00-12:00	武蔵大学国際センター/ディーキン大学	留学生 (オーストラリア)	研修	22	驚き盤
36	11月16日	土 10:00-12:00	日本大学通信教育学部	大学生	授業等	13	概要説明 バックヤード見学
37	11月16日	土 10:00-11:00	京都造形芸術大学 通信部	大学生	授業等	26	概要説明
38	12月17日	火 10:00-12:00	筑波大学附属駒場中・高等学校	中学生	授業等	10	現像体験 (フォトグラム)
39	1月17日	金 9:00-12:10	渋谷区立加計塚小学校	5年生	図工	69	現像体験 (フォトグラム)
40	1月17日	金 10:00-11:00	目黒区立第八中学校	1年生	職場訪問	6	概要説明
41	1月21日	火 9:00-12:10	渋谷区立加計塚小学校	3年生	図工	62	驚き盤
42	1月22日	水 10:00-12:00	品川区立清水台小学校	6年生	図工	11	コマ撮りアニメーション
43	1月23日	木 9:00-12:10	渋谷区立加計塚小学校	4年生	図工	63	コマ撮りアニメーション
44	1月23日	木 13:30-15:30	明治学院高等学校	3年生	授業等	13	現像体験 (モノクロ銀塩ハイブリッド方式)
45	1月24日	金 14:30-16:30	東京女学院小学校	4-6年生	絵画クラブ	10	現像体験 (フォトグラム)
46	3月12日	水 10:00-12:00	明治学院高校	高校生	写真部	11	現像体験 (モノクロ銀塩ハイブリッド方式)
47	3月13日	木 10:00-12:00/ 13:00-15:00	トキワ松学園中学・高等学校	中高生	写真部	12	モノクロ銀塩プリント (ネガフィルム)
48	3月14日	金 14:00-16:00	江戸川区立小学校図工部会	教員	教員研修	23	現像体験 (フォトグラム)

普及事業 ワークショップ等

東京都写真美術館は、写真と映像の二つの専門分野を総合的にあつかう美術館として、広く都民一般を対象に、入門的または専門的な関心を深めるためのワークショップを開館以来実施している。人々が写真、または新旧の映像メディアについて幅広く体験的に学ぶ機会を提供することで、当館が生涯学習の場として機能することを目指している。

ワークショップ

来館者が写真映像メディアについて幅広く体験的に学ぶ機会を提供することを目的に、ワークショップを実施した。

テーマ	講師	開催日	参加人数	参加費
デジタルデータでプリントする鶏卵紙制作 ワークショップ	当館スタッフ	平成25年4月20日(土) 平成25年4月21日(日)	43人	一般 5,000円 学生 3,500円
友の会会員限定：江戸城散歩	当館スタッフ	平成25年5月4日(土・祝)	21人	無料
モノクロ銀塩プリントワークショップ (銀塩ネガフィルム方式)	当館スタッフ	平成25年6月22日(土)	22人	一般 4,000円 学生 3,000円
モノクロ銀塩プリントワークショップ (ハイブリッド方式) 協力：キャノン株式会社	当館スタッフ	平成25年6月23日(日)	17人	一般 5,000円 学生 4,000円
第6回写美フォトドキュメンタリー・ワーク ショップ	Qサカマキ (写真家) 外山俊樹 (アエラ・フォトエディター)	平成25年7月13日(土)～ 7月15日(月・祝)	12人	20,000円
クイック・ヒット・エッセイの一般公開レヴュー	Qサカマキ (写真家) 外山俊樹 (アエラ・フォトエディター)	平成25年7月15日(月・祝)	45人	無料 (世界報道写真展の半券提示)
夏休みワークショップ：植物青写真 太陽の光でオリジナル手ぬぐいとポストカード を作ろう	当館スタッフ	平成25年7月27日(土) 平成25年7月28日(日)	48人	1,000円
ソラリゼーション・ワークショップ	当館スタッフ	平成25年8月17日(土) 平成25年8月18日(日)	19人	一般 5,000円 学生 4,000円
オープン・ワークショップ 「手作りアニメーション体験」	当館スタッフ	平成25年8月24日(土) 平成25年8月25日(日)	84人	無料
大人のための暗室体験/ フォトグラム・ワークショップ	当館スタッフ	平成25年8月31日(土) 平成25年9月1日(日)	49人	一般 4,000円 学生・友の会 3,000円
モノクロ銀塩プリントワークショップ (銀塩ネガフィルム方式)	当館スタッフ	平成25年9月21日(土)	20人	一般 4,000円 学生 3,000円
モノクロ銀塩プリントワークショップ (ハイブリッド方式) 協力：キャノン株式会社	当館スタッフ	平成25年9月22日(日)	23人	一般 5,000円 学生 4,000円
ワークショップ：植物青写真	当館スタッフ	平成25年10月12日(土) 平成25年10月13日(日)	26人	一般 3,000円 学生 2,000円
コレクション展関連事業 こどものための鑑賞プログラム	当館スタッフ	平成25年10月19日(土) 平成25年10月20日(日)	16人 (8組)	親子1組につき500円 (大人1名と対象学年のこども2名まで)
友の会会員限定：モノクロ銀塩プリントワーク ショップ (ハイブリッド方式) 協力：キャノン株式会社	当館スタッフ	平成25年11月30日(土) 平成25年12月1日(日)	30人	友の会会員 4000円
モノクロ銀塩プリントワークショップ (銀塩ネガフィルム方式)	当館スタッフ	平成26年3月15日(土)	19人	一般 4,000円 学生 3,000円
モノクロ銀塩プリントワークショップ (ハイブリッド方式) 協力：キャノン株式会社	当館スタッフ	平成26年3月16日(日)	19人	一般 5,000円 学生 4,000円
合 計			513人	

共催ワークショップ

写真関連団体、企業等と連携したワークショップを実施した。

テーマ	講師等	開催日	参加人数	参加費
親子でピンホール写真体験教室 共催：公益社団法人日本写真協会 協力：富士フィルムイメージングシステムズ (株) 会場：東京都写真美術館	公益社団法人日本写真協会 会員	平成25年6月29日(土) 平成25年6月30日(日)	58人	1,000円
合 計			58人	

講演会等

写真美術館で開催した展覧会と連動して、展覧会出品作家、展覧会関係者による講演会等のプログラムを実施した。

【収蔵展・自主企画展】

展覧会・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編	パネルディスカッション 「明治期天災記録写真と写真技術」	平成25年4月6日(土)	石黒敬章(ゆうもあくらぶ事務局長、日本写真芸術学会評議員)、 高橋則英(日本大学芸術学部写真学科教授)	47人
アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密	関連レクチャー「美の変遷とエレガンス」	平成25年4月13日(土)	岡元美也子(資生堂ビューティートップスベシャリスト、 ヘア&メーキャップアーティスト)	78人
	関連レクチャー「ファッション誌と写真」	平成25年4月20日(土)	原由美子(ファッションディレクター)	126人
	関連レクチャー「新進クリエイターの作品について」 関連レクチャー「ダダからシュルレアリスムへ」	平成25年4月27日(土)	小杉早苗(文化ファッション大学院大学教授) 田中正之(武蔵野美術大学 教授/美術館・図書館 館長)	108人
日本写真の1968	シンポジウム「日本写真の1968」	平成25年6月15日(土)	<モデレーター> 倉石信乃(明治大学教授) 無名性の彼方 <パネリスト> 土屋誠一(美術批評家、沖縄県立芸術大学講師)「記録」の使用法 雷山由紀子(写真研究者 東京大学大学院博士課程) コンボラ写真 と「形式」-なぜ「似ている」のか 小原真史(IZU PHOTO MUSEUM研究員) 東松照明と中平卓馬の 1972年 金子隆一(担当専門調査員) 全日本学生写真連盟の写真一個から集 団へ	167人
米田知子 暗なきところで逢えれば	対談	平成25年7月20日(土) 平成25年7月27日(土)	片岡真実(森美術館 チーフ・キュレーター)、米田知子(出品作家) 半藤一利(小説家)、米田知子(出品作家)	87人 146人
須田一政 風の片	連続対談	平成25年10月5日(土) 平成25年11月2日(土)	鈴木一誌(ブックデザイナー)、須田一政(出品作家) 鈴木理策(写真家)、須田一政(出品作家)	75人 78人
植田正治とジャック・アンリ・ラル ティエーグー写真であそぶ	対談	平成25年11月23日(土・祝)	出演: マルティーン・ダスティエ(ジャック・アンリ・ラルティエ グ財団、本展共同企画者)、金子隆一(東京都写真美術館専門調査員、 本展企画担当) 司会: 鈴木佳子(東京都写真美術館学芸員、本展企画担当)	77人
日本の新進作家vol.12 路上から世界を変えていく	アーティスト・トーク	平成25年12月21日(土)	糸崎公朗(出品作家)	35人
		平成26年1月11日(土)	津田隆志(出品作家)	45人
		平成26年1月18日(土)	林ナツミ(出品作家) 鍛冶谷直記(出品作家)	101人 19人
高谷史郎 明るい部屋	アーティスト・トーク	平成26年1月3日(金)	大森克己(出品作家) ゲスト/ 森彰一郎(プロジェクトFUKUSHIMA!メンバー)	98人
第6回恵比寿映像祭 「トゥルー・カラーズ」	ラウンジトーク	平成26年1月3日(金)	坂本龍一(音楽家)×浅田彰(批評家)×高谷史郎(出品作家)	250人
		平成26年2月7日(金)	タリン・ギル&ピラー・マタ・デュボン(出品作家) ジョウシン・アーサー・リュウ(出品作家)	50人 47人
		平成26年2月8日(土)	田村友一郎(出品作家)	40人
		平成26年2月11日(火・祝)	西京人(小沢剛、チェン・シャオジョン、ギムホンソック)(出品作家)	24人
		平成26年2月16日(日)	ナルパティ・アワンガa.k.a.オムレオ(出品作家)	54人
		平成26年2月18日(火)	下道基行(出品作家)	36人
		平成26年2月19日(水)	真利子哲也(映画監督)、森宗厚子(プログラマー)	37人
		平成26年2月21日(金)	分藤大翼(出品作家/映像人類学者)	31人
		平成26年2月22日(土)	朝海陽子(出品作家)	41人
		平成26年2月23日(日)	ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ(出品作家)	58人
	上映関連ゲストトーク	平成26年2月8日(土)	石内都(写真家)、松平盟子(歌人)	50人
		平成26年2月9日(日)	ラヴ・ディアス(出品作家)	69人
		平成26年2月11日(火・祝)	川瀬慈(出品作家)	15人
		平成26年2月15日(土)	ソ・ジンソク(プログラマー)	21人
		平成26年2月16日(日)	松井茂(プログラマー)	23人
		平成26年2月18日(火)	真利子哲也(出品作家)	27人
		平成26年2月20日(木)	ワン・ビン(出品作家)、成井昭人(ゲスト)	158人
		平成26年2月21日(金)	西田岳史(「身分」制作スタッフ)、松原史(朝日新聞社)	24人
		平成26年2月23日(日)	真利子哲也(出品作家)、森宗厚子(プログラマー)	41人
		平成26年2月23日(日)	藤幡正樹(出品作家)	33人
シンポジウム 「Yebizoラウンドテーブル トゥルー・カラーズ -多様な世界の見つめ方-」	平成26年2月9日(日)	ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ(出品作家) 藤幡正樹(出品作家)、松井茂(プログラマー)、木村智哉(ゲスト)	36人 109人	
シンポジウム 「電子書籍化の波紋 -デジタルコンテンツとしての書籍」	平成26年2月22日(土)	パネリスト: 毛利嘉孝(社会学者、東京藝術大学准教授)、下道基行 (美術家、出品作家)、アークティック・パスベクティヴ・イニシ アティヴ [マルコ・ベリハン、マシュー・ビーダーマン] (美術家、 出品作家)、川瀬慈(映像人類学者、出品作家、上映プログラマー) モデレーター: 北澤ひろみ(恵比寿映像祭ディレクター)	58人	
レクチャー「アジアのアートシーンにおける映像表 現の現在」	平成26年2月11日(火・祝)	ソ・ジンソク(オルタナティヴ・スペース・ループ、ソウル、 ディレクター)、服部浩之(青森公立大学 国際芸術センター青森 [ACAC] 学芸員)、岡村恵子(恵比寿映像祭キュレーター)	35人	
レクチャー 「Fシネマ・プロジェクトーフィルムから映像の現在 を考える」	平成26年2月16日(日)	岩崎ゆう子(コミュニティシネマセンター事務局長)、とちぎあきら (東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員)、樋口泰人(映 画評論家、boid主宰)、田坂博子(恵比寿映像祭キュレーター)	46人	
ライブ・イベント「恵比寿演舞場〜「踊る」とは 何か」	平成26年2月15日(土)	川村亘平斎、大石始、AFRA、櫻井響ほか 企画監修: 清宮陵一	85人	
ライブ・パフォーマンス	平成26年2月9日(日)	西京人(小沢剛、チェン・シャオジョン、ギムホンソック)(出品作家)	56人	
黒部と槍 冠松次郎と穂刈三寿雄	黒部を撮る・黒部に生きる	平成26年3月29日(土)	永田秀樹(「岳人」元編集長)、志水哲也(写真家)	140人 3,095人

【誘致展】

展覧会	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
マリオ・ジャコモメリ写真展	トークショー	平成25年4月7日(日)	大竹昭子(文筆家)、鈴木芳雄氏(編集者)	65人
		平成25年4月27日(土)	細江英公氏(写真家)	75人
		平成25年4月29日(月・祝)	原基晶(イタリア文学者)、鈴木芳雄氏(編集者)	67人
日本写真家協会展 第38回写真公募展	講演会「東日本大震災・被災地の祭りー親子二代で 撮り続けた東北の60年」	平成25年5月18日(土)	芳賀日出男(日本写真家協会名誉会員)、芳賀日向(日本写真家協会会員)	180人
	アトリエセミナー「誰でも撮れるテーブルフォト」	平成25年5月26日(日)	日本写真家協会会員 JPS展委員	20人
世界報道写真展2013	「一日報道カメラマン」	平成25年7月30日(火)	主催:朝日新聞社文化事業部	10人
写真新世紀東京展2013	グランプリ選出公開審査会	平成25年11月8日(金)	大森克己(写真家)、佐内正史(写真家)、榎木野衣(美術批評家)、清水稔(写真評論家)、ヒロミックス(写真家)	188人
合 計				605人

ギャラリートーク

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

【収蔵展・自主企画展】

展覧会	開催日	講師等	参加人数
夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 北海道・東北編	平成25年4月5日(金)・19日(金)・28日(日)・ 29日(月・祝)・5月3日(金・祝)・4日(土・祝)・ 5日(日・祝)・6日(月・休)	三井圭司(担当学芸員)	534人
アーウィン・ブルーメンフェルド 美の秘密	平成25年4月6日(土)・12日(金)・26日(金)	丹羽晴美(担当学芸員)	101人
平成25年度東京都写真美術館コレクション展 写真のエッセー五つのエレメント	平成25年5月22日(水)・24日(金)・6月1日(土)・ 14日(金)・28日(金)	石田哲朗(担当学芸員)	157人
日本写真の1968	平成25年5月24日(金)・25日(土)・6月4日(火)・ 14日(金)・28日(金)・7月12日(金)	金子隆一(担当専門調査員)	210人
平成25年度東京都写真美術館コレクション展 写真のエッセー写真作品のつくりかた	平成25年7月23日(火)・26日(金)・27日(土)・ 28日(日)・8月3日(土)・9日(金)・23日(金)・ 9月13日(金)	三井圭司(担当学芸員)	381人
米田知子 暗なきところで逢えれば	平成25年7月21日(日)・8月2日(金)・16日(金)・ 9月6日(金)・20日(金)	藤村里美(担当学芸員)	191人
平成25年度東京都写真美術館コレクション展 写真のエッセーコスモス 写された自然の形象	平成25年9月27日(金)・10月2日(水)・11日 (金)・19日(土)・25日(金)・11月8日(金)	米崎清実(担当学芸員)	127人
須田一政 風の片	平成25年10月4日(金)・18日(金)・11月1日 (金)・15日(金)・16日(土)・26日(火)	丹羽晴美、伊藤貴弘(担当学芸員)	154人
植田正治とジャック・アンリ・ラルティエーグ ー写真であそぶー	平成25年11月23日(土・祝)・26日(火)・12月 6日(金)・20日(金)・平成26年1月3日(金)・ 17日(金)	金子隆一(担当専門調査員)	379人
高谷史郎 明るい部屋	平成25年12月13日(金)・17日(火)・27日(金)・ 平成26年1月10日(金)・11日(土)・24日(金)	田坂博子(担当学芸員)	207人
日本の新進作家vol.12 路上から世界を変えていく	平成25年12月13日(金)・27日(金)・ 平成26年1月10日(金)・12日(日)・24日(金)	石田哲朗(担当学芸員)	152人
没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖	平成26年3月14日(金)・28日(金)	三井圭司(担当学芸員)	63人
黒部と槍 冠松次郎と穂苅三寿雄	平成26年3月7日(金)・21日(金・祝)・29日(土)	關次和子(担当学芸員)	158人
合 計			2,814人

【誘致展】

外部企画・資金を導入した誘致展においても、出品作家などによる展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
マリオ・ジャコモメリ写真展	平成25年4月25日(水)	伊勢功治(デザイナー)	18人
日本写真家協会展 第38回写真公募展	平成25年5月19日(日)・23日(木)・25日(土)・ 26日(日)・30日(木)・31日(金)・6月1日(土)・ 2日(日)	JPS展委員	257人
岩合光昭写真展 ネコライオン	平成25年8月10日(土)・17日(土)・ 9月21日(土)・22日(日)	岩合光昭(出品作家)	1,240人
写真新世紀東京展2013	平成25年10月26日(土)	2013年度優秀賞受賞者5名 2012年度グランプリ受賞者原田 要介	206人
合 計			1,721人

教育普及事業

あ・ら・かるチャー 渋谷・恵比寿・原宿（文化施設連携事業）

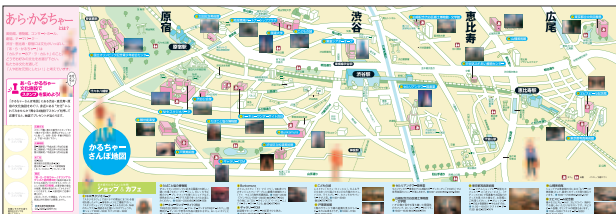
1 趣旨

渋谷を中心としたJR3駅、渋谷、恵比寿、原宿を結ぶエリアには美術館、博物館、コンサートホール、テーマパーク、図書館など数多くの文化施設があり、それぞれの特徴を活かしながら多様な文化事業が展開されている。

本事業の趣旨は、これらの文化施設が連携することにより、従来にも増して、渋谷・恵比寿・原宿が魅力ある文化ゾーンとしての認知度を高め、文化芸術に触れる場や機会の提供の拡充を図ろうとするものである。これにより人々の生活の中に文化が浸透し、地域社会に活力を与えることを目的とする。

2 連携施設

①NHKスタジオパーク ②渋谷公会堂 ③たばこと塩の博物館 ④トーキョーワンダーサイト渋谷 ⑤こどもの城 ⑥Bunkamura ⑦観世能楽堂 ⑧戸栗美術館 ⑨ギャラリーTOM ⑩渋谷区立松濤美術館 ⑪太田記念美術館 ⑫地球環境パートナーシッププラザ ⑬国連大学 ⑭セルリアンタワー能楽堂 ⑮白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 ⑯渋谷区ふれあい植物センター ⑰東京都立中央図書館 ⑱エビスビール記念館 ⑲山種美術館 ⑳国立オリンピック記念青少年総合センター ㉑東京都写真美術館 ㉒東京シアターオーブ



かるチャー散歩地図

3 活動実績

(1) 「あ・ら・かるチャー 渋谷・恵比寿・原宿」運営協議会の開催

参加施設の担当者が集まり、連携事業についての協議や情報交換を行った。(実施回数：連絡会5回、事務局会5回)

(2) 広報宣伝

①さんぽ地図の印刷、配付

連携施設を紹介する「かるチャーさんぽ地図」70,000部を作成し、配付した。「かるチャーさんぽ地図」には3期にわたりスタンプラリーを実施。抽選により延べ300名に施設の招待券をプレゼントした。また、英語版の施設紹介パンフを新規作成した(次年度から配付)。

②「あ・ら・かるチャー」ホームページ

参加館のホームページ上にバナーを設置、参加館の紹介をした。また、各施設のホームページにリンクを貼り相互PRを行った。

(3) 連携事業・イベント

(ア) 文化施設の紹介と交流

①文化施設体験ツアーの準備

渋谷、恵比寿地域の大使館等を訪問し、あ・ら・かるチャー各施設と諸外国との文化事業の連携や広報活動のための文化施設体験ツアー実施に向けた意見交換を行った。訪問先は下記のとおり。
訪問大使館等：チエコセンター、台北文化センター、カナダ大使館

②文化施設体験ツアーの実施

渋谷、恵比寿地域の大使館等の文化・広報担当者を招いて、あ・ら・かるチャーの施設紹介ならびに担当者との交流会を開催した。
日時：平成26年3月28日(金)
場所：観世能楽堂、戸栗美術館
参加者：オーストラリア大使館、オーストラリア大使館、ハンガリー大使館、ポーランド共和国大使館 より合計 6名

(イ) 第36回渋谷区くみの広場ふるさと渋谷フェスティバルに参加

「あ・ら・かるチャー」のテントを出して渋谷・恵比寿・原宿地区の文化活動をアピール。各施設の案内チラシの配布をはじめ、「あ・ら・かるチャークイズ」や抽選会を実施した。2日間で延べ1,366人の参加を得た。

第36回渋谷区くみの広場ふるさと渋谷フェスティバル

開催日：平成25年11月2日(土)・3日(日・祝)

場所：代々木公園(渋谷区)



渋谷区民フェスでのテント風景

教育普及事業

ボランティア／博物館実習

東京都写真美術館ボランティア

ボランティアスタッフの積極的な参加によってワークショップ、スクールプログラムといった来館者向けの体験プログラムの充実した内容の活動を実施した。平成25年度は活動日数、参加者数が前年とほぼ同様となった。

1 登録者数：76名

平成24年度からの更新登録者 62名

新規登録者 14名

2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数 76回 1ヶ月平均 約6回

のべ参加者 379人

(ただしボランティア研修会をのぞく。)年間一人あたり4.9回

(1) ワークショップ・スタッフ活動 27回

(2) スクールプログラム・スタッフ活動 30回

(3) 「恵比寿映像祭」会場スタッフ 19回

●ボランティア研修会(暗室実技自主研修ほか) 8回

平成25年7月5日(金)、7月6日(土)、9月16日(月・祝)、

9月27日(金)、10月1日(火)、10月19日(土)、10月20

日(日)、11月9日(土)

●新規ボランティア研修会・ボランティア交流会 2回

平成25年5月25日(土)、9月28日(土)

●ボランティア総会 平成25年4月7日(日) 1回

博物館実習

写真美術館における美術館活動と学芸員および各部署の業務を实地で研修することによって、学芸員養成のための実習とした。平成25年度は展覧会業務、作品管理業務、教育普及業務の3つの実習グループに分かれて、10日間の実習を行った。

1. 受入日程：平成25年8月19日(月)～9月10日(火)のうち
10日間

2. 受入人数：12名

3. 受入大学：青山学院大学、学習院大学、京都造形芸術大学、
多摩美術大学、東京工芸大学、二松学舎大学、
日本女子大学、武蔵野美術大学、立教大学

作品資料収集／作品収集実績

●収集の基本方針

写真作品（オリジナル・プリント）を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

[写真作品]

- 1 国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2 写真の発生から現代まで、写真史の上で重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3 歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品の発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4 東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5 日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
6. 基本方針〔写真作品〕5に基づき作品を収集した重点作家（17人）

秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

[写真資料]

- 1 出版物（写真集、専門書、雑誌等）については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2 ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3 ポスターなど、写真展の付属資料（図録、チケット等）を収集する。
- 4 その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

[写真機材類]

- 1 写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2 体験学習などの事業活動に必要なものを収集する。

[映像資料]

- 1 映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2 体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3 日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。

- 4 各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

●写真作品収集の新指針(平成18年11月13日策定)

- 1 写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2 黎明期の写真のように、希少価値的な作品を積極的に収集する。
- 3 写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4 1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5 新進展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6 写真美術館の展覧会（自主展、収蔵展）で取り上げた作家作品を収集する。
- 7 基本方針〔写真作品〕5に基づく新規重点作家の設定
 - (1) 日本を代表する作家であること
 - (2) 国内外で評価が高いこと
 - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
 - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
 - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
 - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
 - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8 新指針7に基づく新規重点作家（21人）
荒木経惟 石内都 オノデラユキ 北井一夫 北島敬三 小山穂太郎 佐藤時啓 篠山紀信 柴田敏雄 杉本博司 鈴木清 須田一政 高梨豊 田村彰英 畠山直哉 深瀬昌久 古屋誠一 宮本隆司 森村泰昌 やなぎみわ 山崎博

平成25年度収集点数：915点

東京都写真美術館コレクション点数：30,528点

【内訳】国内写真作品：750点 海外写真作品：39点

【内訳】国内写真作品：19,562点 海外写真作品：5,519点

映像作品資料：11点 写真資料：115点

映像作品資料：2,329点 写真資料：3,118点

●作品収集実績

東京都購入案件

作家名	作品名	技法	サイズ	点数	制作年	備考
大森 克己	すべては初めて起こる	発色現像方式印画	590x395	12	2011	H25「日本の新進作家 vol.12」展出品作品
岡村 昭彦	ピアフラ	発色現像方式印画	250x300	20	1968-1970	H26「岡村昭彦」展出品予定作品 printed in 2013
北島 敬三	ニューヨーク	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	356x279	2	1980	H25「写真のエステー写真作品のつくりかた」 出品作品 printed in 2013
佐藤 時啓	<光・呼吸> <グリーンング・ライト>	インクジェット・プリント他	1500x2000	4	1998他	H26「佐藤時啓」展出品予定作品 AP, 1/3(24点組)
須田 一政	風の片	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	355x275	15	2011-2013	H25「須田一政」展出品作品
田村 彰英	道	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	607x506	6	1976-1979	H24「田村彰英」展出品作品 printed in 1985
中平 卓馬	無題	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	321x321	10	1968-1970	10点中4点は「日本写真の1968」展出品作品 printed in 2013
長島 有里枝	セルフ・ポートレート	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	387x580	9	1993	9点セット作品、ed.1/5+AP printed in 2013
野村 佐紀子	黒闇	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	390x583	18	2008	
三好 耕三	湯船	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	508x609	27	2010-2012	H26「コレクション」展出品予定作品
米田 知子	<Scene><パラレル・ライフ： ゾルゲを中心とする国際諜報団 密会場所>	発色現像方式印画他	760x960	20	2006-2008	H25「米田知子」展出品作品 ed.1/5, 2/10
高谷 史郎	<Camera Lucida> <Toposcan>	その他のフィルム		4	2004-2013	H25「高谷史郎」展出品作品
TAN, Fiona	Lift	その他のフィルム		1	2000	H26「フィオナ・タン」展出品予定作品 ed.4/5
FISCHER, Nina/ EL SANI, Maroan	Sayonara Hashima	その他のフィルム		1	2009	H24「記録は可能か。」展出品作品 シングルチャンネル版、17分25秒
合 計				149		

東京都写真美術館購入案件

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ	点数	制作年	備考
江崎 禮二	松村由章像	アンプロタイプ	108x82	2	1886	
新倉 孝雄	セーフティ・ゾーン	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	195x295	10	1964-1968	10点中8点はH25「日本写真の1968」展 出品作品 printed in 2013
渡辺 克巳	新宿群盗伝	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	198x282	10	1966-1973	10点中8点はH25「日本写真の1968」展 出品作品 printed later
STILLFRIED, Raimund von	<シュティルフリートが明治4, 5年頃撮った風景写真><シュテ ィルフリートが明治5年の北海道 撮影旅行で撮った写真>	鶏卵紙	228x290	19	1871-1872	
TALBOT, William Henry Fox	The Process of Calotype Photographic Drawing. Communicated to the Royal Society, June 10th 1841	その他の技法		1	1841	『カロタイプ印刷法』（王立協会議事録別刷）
				42		

※東京都写真美術館購入案件42点については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

寄贈

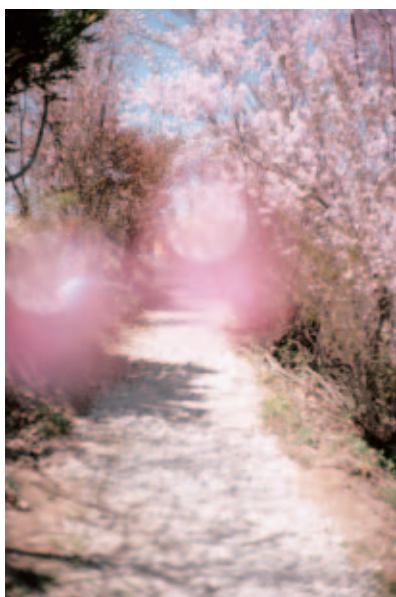
作家名	作品名	技法	サイズ	点数	制作年from	備考
青木 森次郎	晩秋晴日	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	189x236	1	1936	今井修平氏より
大森 克己	<すべては初めて起こる> <サルサ・ガムテープ>	発色現像方式印画	509x395	23	1997-2011	H25「日本の新進作家vol.12」展出品作品、購入時寄贈、2/7,AP
河原 侃二	初夏風景	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	248x291	1	1930頃	今井修平氏より
北井 一夫	<神戸港湾労働者><三里塚> <いつか見た風景><境川の人々> <新世界物語><おてんき>他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	196x290	309	1965-2011	1/5
北島 敬三	ニューヨーク	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	356x279	1	1980	H25「写真のエッセー 写真作品のつくりかた」展出品作品、購入時寄贈、printed in 2013
北堀 省吾	初秋	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	135x194	1	1935	今井修平氏より
小関 庄太郎	《落日》《田舎の風景》	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	252x322	2	1930頃	今井修平氏より
佐藤 信	《早春暮景》《河畔》	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	203x255	2	1930頃	今井修平氏より
下条 吉一	曇日法蓮町	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	230x266	1	1930頃	今井修平氏より
杉井 豊保	《(静物)》他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	291x241	42	1930-1939頃	今井修平氏より
須田 一政	屈の片	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	355x275	5	2011-2013	H25「須田一政」展出品作品、購入時寄贈
関口 正夫	日々	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	138x210	24	1967-1969	24点中8点はH25「日本写真の1968」展出品作品、printed in 1971
高山 正隆	(静物)	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	259x231	1	1930頃	今井修平氏より
高山 正隆	《楽器持つ女》他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	227x140	64	1920-1942	ご息女より、寄託から切り替え
橋本 金三郎	夏日田家	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	202x262	1	1930	今井修平氏より
野村 佐紀子	夜間飛行	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	163x234	30	2008	購入時寄贈
萩原 露愁	霜月野	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	227x239	1	1937	今井修平氏より
古屋 誠一	Christine Furuya-Gössler, Vienna	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	250x375	1	1982	「ラヴズ・ボディ」展出品作品(1998年)
本田 仙花	《湯野山温泉の朝》《駅前風景》《憩い》	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	176x217	3	1935	今井修平氏より
本間 鉄雄	《秋果と花》《冬の陽》	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	232x298	2	1981	今井修平氏より
真継 不二夫	南氏夫妻之像	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	281x232	1	1929	今井修平氏より
南 賢治	《(南賢治夫人像)》他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	289x233	43	1930-1939頃	今井修平氏より
三好 耕三	ROUTE 66	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	508x609	3	1995-1996	H26「コレクション」展出品予定作品、購入時寄贈
山本 牧彦	静日散策	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	243x246	1	1929	今井修平氏より
吉崎 暁村	曾我川風景	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	234x283	1	1930頃	今井修平氏より
米田 知子	<Between Visible and Invisible> <The Iskand of Sakhalin>	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	650x830	5	2012-2013	H25「米田知子」展出品作品、購入時寄贈、1/7 AP
渡辺 克巳	新宿群盗伝	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	282x189	10	1968	購入時寄贈、ご夫人より
渡辺 淳	南瓜とそら豆	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	233x295	1	1982	今井修平氏より
作家不詳	《(田舎風景)》他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	177x221	5	1930頃	今井修平氏より
CASTILHO, Joao	<Redmundo (Whirlwind)> <Vade Retro>	インクジェット・プリント	800x1200	6	2006-2012	「神話のこぼれ プラジール現代写真」展出品作品(資生堂ギャラリー)、作家本人より
IZIS (Israel Bidermanas)	Boulevard Rochechouart Paris	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	427x355	1		ご息子より
STEPHANY, Jaromir	Dark Star 019-03	インクジェット・プリント	758x550	1	2000頃	
HUNTER, George	Manitoba: Winnipeg - Salisbury House of Broadway, one of Canada's first fast-food restaurants他	インクジェット・プリント	187x240	12	1945-1982	故人本人からの寄贈お申し出 modern print
高山 正隆	《(詠子一才)》他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	188x138	12	1920-1941	ご息女より、寄託からの変更
南 賢治	《狩勝峠》他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	120x177	101	1929-1959	萩谷剛氏より
大本写真班	陣中日誌 明治三十七年十二月二十六日以降	その他の技法	243x100	1	1903	日露戦争記録のための軍写真班・陸地測量部の小倉俊司氏のご遺族より
古橋 悌二	LOVERS-永遠の恋人たち	その他のフィルム		1	1994	ビデオ・インスタレーションをレーザー・ディスク化した映像作品。ed.3/3 ディスク2枚、ケース1台
TAN, Fiona	Lift	シルクスクリーン、その他のフィルム	1080x640	4	2000	H26「フィオナ・タン」展出品予定作品、購入時寄贈
				724		

●プリントスタディールーム

東京都写真美術館では、写真作品・資料の収集、展覧会等での展示・鑑賞をおこなっており、研究・鑑賞のために直接作品等を閲覧する特別閲覧(プリントスタディールーム)制度を設けている。(実績は70ページ)

平成25年度収蔵作品の紹介

東京都購入案件



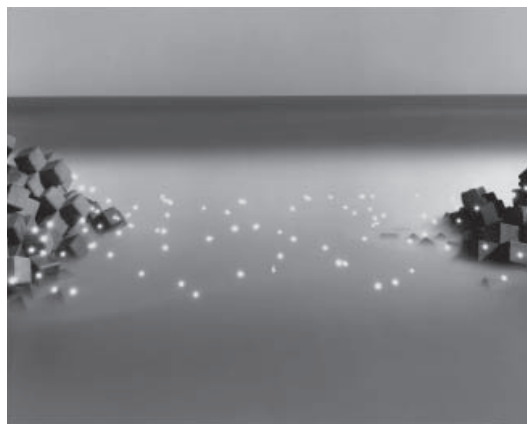
大森克己 〈すべては初めて起こる〉より《福島市、福島》
2011 発色現像方式印画



岡村昭彦 〈ピアフラ〉より
1968-1970 発色現像方式印画



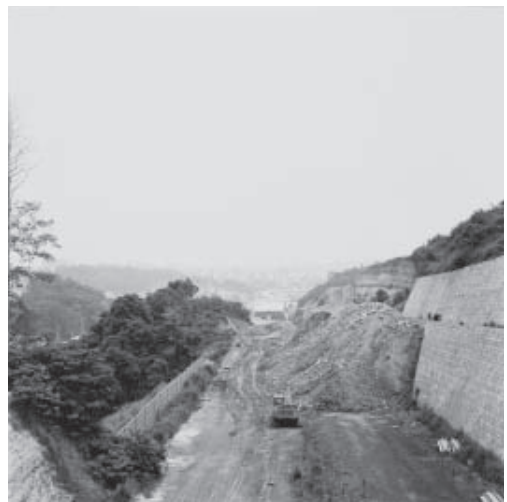
北島敬三 〈ニューヨーク〉より《#207》
1980 ゼラチン・シルバー・プリント



佐藤時啓 〈光-呼吸〉より《#347 Hattachi》
1998年 インクジェット・プリント



須田一政 〈風の片〉
2012年 ゼラチン・シルバー・プリント



田村彰英 〈道〉より《1979年6月10日》
1979年 ゼラチン・シルバー・プリント



中平卓馬 《無題》
1968-69年 ゼラチン・シルバー・プリント



長島有里枝 〈Self-portraits〉より
《Self-portrait (brother #32A)》
1993年 ゼラチン・シルバー・プリント



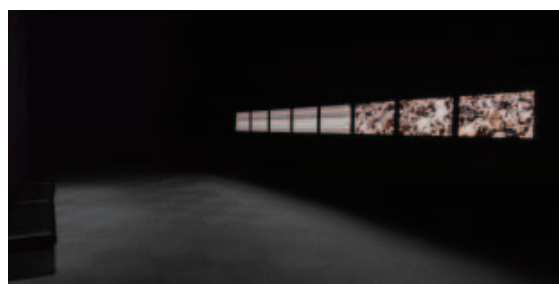
野村佐紀子 〈KUROYAMI〉
2008年 ゼラチン・シルバー・プリント



三好耕三 〈湯船〉より《湯峰 和歌山》
2010年 ゼラチン・シルバー・プリント



米田知子 〈Scene〉より
《プラットフォーム - 伊藤博文暗殺現場、ハルビン・中国》
2007年 発色現像方式印画



高谷史郎 〈Toposcan〉
2013年 その他のフィルム



フィオナ・タン 《リフト》
2000年 その他のフィルム



ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ
《Sayonara Hashima》
2009年 その他のフィルム

東京都写真美術館購入案件



江崎禮二 《松村由章像》
1886年 アンプロタイプ



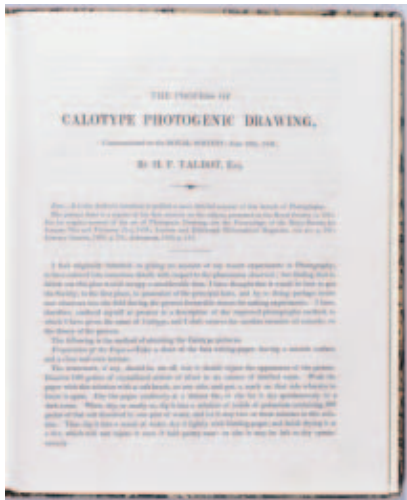
新倉孝雄 《セーフティ・ゾーン》より《旧軽井沢》
1964年 ゼラチン・シルバー・プリント



渡辺克巳 《新宿群盗伝66/73》より《歌舞伎町》
1971年 ゼラチン・シルバー・プリント



STILLFRIED, Baron Raimund von
《シュティルフリートが明治4,5年頃撮った風景写真》より
《YEDO-CASTLE》
1871-1872 鶏卵紙



TALBOT, William Henry Fox
《The Process of Calotype Photographic Drawing. Communicated
to the Royal Society, June 10th 1841》
1841年 その他の技法

調査研究・普及活動(個人)

【東京都写真美術館展覧会図録論文】

石田哲朗

「写真のエステ 五つのエレメント」『写真のエステ』展図録、東京都写真美術館、2013年、pp.8-9

「再び路上で」『日本の新進作家vol.12路上から世界を変えていく』展図録、東京都写真美術館、2013年、pp.9-15

金子隆一

「クロニクル1968——「写真」の近代を変革するために」『日本写真の1968』展図録、東京都写真美術館、2013年、pp.7-16

「行為としての写真——全日本学生写真連盟の成立と最初の変革」『日本写真の1968』展図録、東京都写真美術館、2013年、pp.178-183

「写真する人、植田正治」『植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ——写真で遊ぶ』展図録、東京都写真美術館、2013年、pp.165-167

北澤ひろみ

「トゥルー・カラース」『第6回恵比寿映像祭 トゥルー・カラース』展図録、東京都写真美術館、2014年、pp.8-15

鈴木佳子

「植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグふたりの特異性」『植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ』展図録、東京都写真美術館、2013年、pp.168-169

関次和子

「黒部と槍 冠松次郎と穂刈三寿雄」『黒部と槍 冠松次郎と穂刈三寿雄』展図録、東京都写真美術館、2014年、pp.178-183

田坂博子

「高谷史郎の明るい部屋」『高谷史郎 明るい部屋』展図録、東京都写真美術館、2013年、pp.114-121

丹羽晴美

「凧の片 -- 日常から異界へ」『須田一政 凧の片』展図録、冬青社、2013年、pp.146-151

藤村里美

「光の彼方」『米田知子 暗なきところで逢えれば』展図録、平凡社、2013年、pp.159-164

三井圭司

「写真作品のつくりかた」『写真のエステ』展図録、東京都写真美術館、2013年、pp.60-61

「写真史における下岡蓮杖の位置」『没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖』展図録、国書刊行会、2014年、pp.177-184

米崎清実

「コスモス—写された自然の形象」『写真のエステ』展図録、東京都写真美術館、2013年、p.114

【東京都写真美術館紀要No. 13】

伊藤貴弘

「展覧会『シュタイデルとの本の作り方』について」pp.61-67

金子隆一

「シンポジウム『日本写真の1968』全記録」pp.13-pp.51

山峰潤也

「新進作家から見るデジタル時代における身体とその思考～表現の時代背景から～」pp.53-59

栗栖美樹 (インターン)

「視点としてのユートピア：ガイ・ティリムのドキュメンタリー写真『Jo' burg』シリーズに歴史の地層を読む」pp.87-101

「Utopia as a perspective: Reading historical strata in Guy Tillim's documentary photo essay Jo' burg series」pp.103-117

徳本宏子 (インターン)

「東京都写真美術館のワークショップ 暗室での現像体験の意義」pp.79-pp.85

山田裕理 (インターン)

「ロマンチズムからヒューマニズムへ——大東元の再評価をめぐる」pp.69-77

【寄稿】

石田哲朗

「日本の新進作家vol.12:路上から世界を変えていく 見なれた既知に未知を見いだす」東京新聞朝刊 2013年12月2日

碓井千鶴

「『内部被ばくを生き抜く』上映会レポート・ミツパチの問いかけ」『neoneo』02号、2013年、neoneo編集室、pp.48-49

「ギョームを追いかけて—パテオラマからセカンドライフまで」『neoneo』03号、2013年、neoneo編集室、pp.86-87

岡村恵子

「Media/Art Kitchen - Reality Distortion Field」(Co-authored with HATTORI Hiroyuki, AIDA Daiya), 2013/「メディア・アートって何？」日本と東南アジアのキュレーターが挑むメディア・アートの今日的意義(服部浩之、会田大也との共著)『をちこちMagazine』(<http://www.wochikochi.jp/>) 2013年9月15日配信

「ARTIST INTERVIEW ミン・ウォン」(聞き手・文)美術手帖第65巻通巻991号(2013年9月号)、pp.185-199

「ARTIST INTERVIEW フィオナ・タン」(聞き手・文)美術手帖第65巻通巻993号(2013年11月号)、pp.171-191

"Constructing an Alternative Institution for Media/Art", Media/Art Kitchen - Reality Distortion Field: Document Book E, 2014, The Japan Foundation, pp.12-14

笠原美智子

「蔵真墨〈氷見〉」蔵真墨『氷見』蒼穹社、2013年、n.p.

「VOCA展2014 選考所感」『現代美術の展望—新しい平面の作家たち VOCA展2014』展図録、上野の森美術館、2014、p.2

金子隆一

"The Position of Kansuke Yamamoto: Re-examining Japan's Modern Photography" Japan's Modern Divide: The Photographs of Hiroshi Hamaya and Kansuke Yamamoto, The J. Paul Getty Museum, 2013, pp.166-173

「明治の写真とコロタイプ絵はがき」『明治の京都 てのひら逍遙』便利堂、2013年、pp.92-93

「歴史のヒーロー・ヒロイン 木村専一」『本郷』No.105、吉川弘文館、2013年、p.25

「101年目の植田正治」『植田正治のつくりかた』東京ステーション・ギャラリー、青幻舎、2013年、pp.178 -pp.180

北澤ひろみ

「ヴェネチア・ビエンナーレ特集 総合ディレクター、マッシミリアーノ・ジオーニ インタビュー／アーティスト・ピックアップ イェスパー・ユスト、荒川医、リー・キット」『美術手帖』、2013年8月号、第65巻、通巻989号、pp.14-31、p.55 p.63 p.94、

「万物に宿る、記憶の集積—「ダレン・アーモンド追考」展」『美術手帖』、2014年2月号、第66巻、通巻999号、pp.186-188

関次和子

「マイクロプレゼンス～新しい昆虫の見方 小檜山賢二」『田淵行男記念館 館報2014』、2014年3月、pp.8-23

「日本山岳写真の黎明期 黒部と北アルプスを撮った男」『YANASE LIFE Plaisir』、2014年2月、pp.12-22

「冠松次郎と穂苅三寿雄の『山岳写真』」『日本カメラ』4月号、p.99

田坂博子

「時評 映像と映画をめぐる「実験」の考察 三宅唱『Playback』について」『凶区』凶区編集部、pp.39-42

丹羽晴美

「アーツカウンシル東京の課題と有効性」科学研究費基盤研究(B)「コンテンポラリーダンスの美学と制度の分析」報告書

DVD、2013年、pp.42-43

「EXぎゃらりー 須田一政 凧の片」SANKEI EXPRESS、2013年9月30日-10月5日

藤村里美

「今月の一品<絶え間なく沿う 進藤環>」『美術の窓』生活の友社、p.159

「モデルFをめぐるヌード」『NUDE!』朝日新聞出版、p.79

三井圭司

「150年前の日本のすべて（モノとしての初期写真—幕末～明治中期に制作された写真の所蔵調査について）」小沢健志監修『レンズが撮らえた150年前の日本』山川出版、2013年、pp.34-57

「激動期に起点をもつ日本の視覚文化—写真」『日本美術全集』第16巻、小学館、2013年、pp.209-211

山口孝子

「2012年写真の進歩、展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第76巻3号、日本写真学会、2013年、pp.250-251

山崎潤也

書評「3D 世紀 - 驚異！立体映画の100年と映像新世紀 - 大口孝之、谷島正之、灰原光晴著」、日本バーチャルリアリティ学会誌第18巻3号2013年、p.54

米崎清実

「多摩の近世寺院—中世からの継承と断絶」多摩地域史研究会編『多摩・中世寺院と地域社会』、2013年、pp.55-66

【学会発表】

三井圭司

「東京都写真美術館において実施した全国初期写真所蔵調査について」日本写真芸術学会年次大会、2013年6月15日

山口孝子

白岩洋子、山口孝子、新井英夫、小谷野匡子、大川美香、「防黴剤JE-120液の水損写真に対する効果と影響」、第35回文化財保存修復学会、文化財保存修復学会、東北大学百周年記念会館川内萩ホール、2013年7月20日

【講演会・シンポジウム等】

岡村恵子

"Media/Art Kitchen Curators Presentation: Role of Media Arts' Festivals/events in Japan and Southeast Asia" at Galerie Nasional Indonesia, Jakarta, September 5, 2013 [Symposium with M. Sigit Budi, Adeline Ooi, Pichaya Aime, Dayang Yraola / Modelator: Ade Darmawan]

「第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展について」(杉田敦、高橋瑞木との鼎談)、HIGURE 17-15 cas、2013年9月15日

講演会『「コレクションで見る沖縄の映像」展関連催事：アジア・沖縄の混沌と映像』沖縄県立美術館、2013年10月12日
 “Curators’ meeting: Media/Art Kitchen Bangkok,” Bangkok Art and Culture Center, Bangkok, December 21, 2013

笠原美智子

Lecture, “Lieto Shiga, ‘Rasen Kaigan (spiral beach)’”, Fotografica Bogota 2013, Universidad Central, Bogota, Colombia, May 6, 2013

Panel, “International Forum - Photography and the Art System”, 1st Beijing Photo Biennial, China Millennium Monument, China, October 24, 2013

SSD House Lecture 「日本の現代写真 女性作家を中心に」せんだいスクール・オブ・デザイン、阿部仁史アトリエ、2014年1月17日

金子隆一

講演会「郎静山と日本のピクトリアリズム」[「郎静山撮影藝術国際学術検討会」中国美術館、北京 2013年10月11日]

シンポジウム「富重写真所 温故創新－歴史価値の継承と未来価値の創造」熊本学園大学、2013年11月16日

講座「写真の見方・楽しみ方～写真美術館に行こう！」豊島区千早地域文化創造館、2013年11月24日、12月3日、12月10日

対談「回想：植田正治」(薦谷典子氏と)「植田正治のつくりかた」展(東京ステーション・ギャラリー)関連イベント、2013年10月26日

北澤ひろみ

Panel, 5th Video Art Archive Network Forum 2013, Seoul Museum of Art, / Alternative Space LOOP, Republic of Korea, November 15, 2013

関次和子

“Museum Management and Empowerment of Image Collection” 2013, International Symposium, National Taiwan University of Arts, Taipei, Taiwan, R. O. C., May 9, 2013

丹羽晴美

国際シンポジウム「現代美術をコレクションするとは？」国立国際美術館、2014年3月1日

三井圭司

美術講演会「幕末・明治の写真」『夜明けまえ 知られざる日

本写真開拓史IV 北海道・東北編」関連講演会、北海道立函館美術館主催、於北海道立函館美術館講堂、2013年5月18日

Nissan Seminar: Conserving Photographs after Japan’ s Tsunami: The Example of the RD3 Project, Pavilion Room, Gateway Building, St. Antony’s College, 2013年10月25日

パネルディスカッション「明治期天災記録写真と写真技術」東京都写真美術館主催、東京都写真美術館1階ホール、2013年4月6日

山口孝子

page2014オープンイベント「日本写真保存センター」セミナー、「日本写真保存センターが推奨する包材について」、池袋サンシャイン文化会館7階、2014年2月5日

シンポジウム「撮影監督宮川一夫コレクションの保存とデジタル化の試み－撮影台本を中心に－」、「台本に貼り込まれたフィルムの保存」、京都府京都文化博物館フィルムシアター、2014年3月22日

山峰潤也

レクチャー、プログラム企画「Waterpieces 2013」(海外メディア芸術祭等参加事業) NOASS、ラトビア、リガ、2013年8月16日

米崎清実

「多摩の近世寺院－中世からの継承と断絶」多摩地域史研究会第22回大会『多摩・中世寺院と地域社会』における報告、2013年6月16日、

「参詣と観光」『古文書に見る武州御嶽山の歴史』における講演、2013年12月1日

【非常勤講師等】

石田哲朗

東北芸術工科大学「メディアアート論・卒業制作講評」2014年1月23日

岡村恵子

横浜国立大学教育人間科学部人間文化課程人間文化基礎論IIA 特別講義「Make It Public : 公共事業としての文化イベント」2013年5月22日

笠原美智子

明治学院大学大学院「美術史学特殊講義ⅢA, B」春学期・秋学期

九州産業大学大学院「写真特殊演習」2013年7月19日
 多摩美術大学大学院博士課程学位審査外部審査員2014年1月15日

金子隆一

東京総合写真専門学校「合評演習」通年

武蔵野美術大学芸術文化学科「写真論Ⅰ」前期、「写真論Ⅱ」後期、「写真特論Ⅱ」通年

筑波大学体育芸術学群「創造的復興：カタストロフィーと芸術<原爆と戦後日本の写真表現>」2013年10月25日

北澤ひろみ

東京芸術大学「写真映像論」2013年5月7日、14日、7月23日

美学校「映像表現の可能性 特別講義」2013年11月11日

鈴木佳子

跡見学園女子大学「写真論」春学期

田坂博子

東京藝術大学大学院映像研究科講義「現代芸術論」2013年12月25日

丹羽晴美

学習院女子大学国際文化交流学部「国際文化交流演習」2013年春学期

法政大学国際文化学部「写真論」2013年秋学期

藤村里美

玉川大学芸術学部ビジュアル・アート科「写真史」2013年春学期

武蔵大学人文学部ヨーロッパ文化学科「イメージ文化論」2013年後期

三井圭司

明治学院大学「写真史写真理論研究」2013年春・秋学期

北海道教育大学「メディア・デザイン理論Ⅲ」2013年夏期集中講義 8月29日～31日

山口孝子

東海大学課程資格教育センター、「博物館学実習Ⅰ写真技術」、春・秋学期集中講義

東京文化財研究所、保存担当学芸員研修、「劣化と保存 写真」、2013年7月18日

山峰潤也

明治学院大学「デジタル・アート論2A」春学期

米崎清実

法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科「文化環境創造論」2013年度秋学期

法政大学通信教育課程文学部史学科「史学演習」冬期スクーリング設置科目2014年1月21日～27日

法政大学通信教育課程文学部史学科卒業論文指導

【委員・審査員等】

碓井千鶴

Hors Pistes Tokyo 2013 プログラムディレクター

岡村恵子

愛知芸術文化センター「平成25年度オリジナル映像作品制作作家選定委員会」委員

笠原美智子

東京国立近代美術館評議員（美術・工芸部会）、東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会委員（写真部門）、財団法人西洋美術振興財団賞審査委員、財団法人周南市振興財団林忠彦賞選考委員、東川賞審査員（東川町）、財団法人五島記念文化財団五島記念文化賞美術新人賞候補者推薦委員、国際交流基金「国際展事業委員会」委員、「VOCA展」実行委員および選考委員（上野の森美術館）、吉野石膏美術振興財団評議員、「MIO PHOTO OSKA」レビュアー、nominator for the 30th Annual ICP Infinity Awards, nominator for the Prix Pictet Award, nominator for the Fourth Edition 2013/14 of GD4PhotoArt

金子隆一

日本写真芸術学会理事、文化審議会専門委員、松戸市立博物館等資料選定評価委員会委員、高浜市やきものの里かわら美術館運営審議会委員、横浜市美術資料収集審査委員、芸術選奨審査委員、公益財団法人河鍋晩斎記念美術館理事

田坂博子

第17回文化庁メディア芸術祭アート部門選考委員

平成25年度公益財団法人 ポーラ美術振興財団 美術館職員の調査研究助成「デジタル時代におけるフィルム/ビデオ、メディア作品の展示と映像アーカイブの関係について」

丹羽晴美

公益社団法人日本広告写真家協会公募展審査委員、福島市写真美術館企画専門委員、高知県立美術館石元泰博作品等利活用検討専門家委員

三井圭司

史跡上田城跡整備実施計画検討委員、平成25年度日本写真芸術学会学術賞、陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト事務局長

山口孝子

日本写真学会監事、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写真保存センター諮問調査委員、国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員、国立国会図書館資料保存懇話会委員、国立民族学博物館人間文化研究機構連携研究員

米崎清実

関東近世史研究会評議員、法政大学史学会評議員

インターン及び研究者

写真美術館では平成20年度よりインターン制度を導入している。原則1年間、指導学芸員と共に美術館のスタッフとして展覧会や普及事業等を担当し、将来の美術館活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材を育成することに寄与することを目的としている。第6期となった平成25年度のインターン生及び担当業務は以下のとおりである。

【インターン】

小倉礼子

担当業務：展覧会補助

「夜明けまえ 知られざる写真開拓史 北海道・東北編」展
 「須田一政 凧の片」展
 「写真のエステ」展
 「没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖」展

指導学芸員：三井圭司

栗栖美樹

担当業務：展覧会補助

「米田知子 暗なきところで逢えれば」展
 「高谷史郎 明るい部屋」展
 作品保存管理

指導学芸員：藤村里美

佐藤 彩

担当業務：作品保存管理

指導学芸員：山口孝子

(期間：平成25年5月10日～8月8日)

高野英江

担当業務：展覧会補助

「恵比寿映像祭」

指導学芸員：柳生みゆき 北澤ひろみ

徳本宏子

担当業務：展覧会補助

「写真のエステ」展

「日本の新進作家vol.12 路上から世界を変えていく」展

教育普及事業・スクールプログラム

指導学芸員：石田哲朗

山田真弓

担当業務：展覧会補助

「日本写真の1968」展

「植田正治とジャック・アンリ・ラルティエーグー写真であそぶ」展

次年度展覧会「岡村昭彦」展

指導学芸員：金子隆一

山田裕理

担当業務：展覧会補助

「日本写真の1968」展

「植田正治とジャック・アンリ・ラルティエーグー写真であそぶ」展

次年度展覧会「佐藤時啓」展

作品貸出、資料調査補助

指導学芸員：鈴木佳子

【研究者】

太田恵美子（高知県立美術館学芸員）

担当業務：作品保存管理

担当学芸員：藤村里美

(期間：平成25年9月1日～11月30日)

広報事業

平成25年度は、美術館の楽しみ方を多方向から提案した。展覧会の内容紹介だけにとどまらず、美術館全体を楽しむためのわかりやすい広報を積極的に実践した。

- 1 広報誌「写真美術館ニュースeyes（アイズ）」発行
(vol.78～vol.81) 季刊、発行部数：各号30,000部
＜巻頭記事＞
78号「須田一政」
79号「植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ」
80号「黒部と槍 冠松次郎と穂刈三寿雄」
81号「佐藤時啓」



ニュース78～81号表紙

2 ホームページの活用

平均アクセス数は約48万ページビュー（以下PV）を推移し、昨年度比約120%超となった。ユーザーの使用OSから見て、スマートフォンやタブレット端末からのアクセスが各月平均的に半数を超えたとされる。twitterや、スマートフォン媒体の広告なども功を奏し、PV数が全体的に底上げされた感がある。26年度の休館に向けた準備と告知に対応出来るようサイトの整備を検討している。
東京都写真美術館公式ホームページ www.syabi.com

3 プレスリリース作成・発送およびプレス取材対応

リリース件数は各回約670件。また、電話・FAX・メール

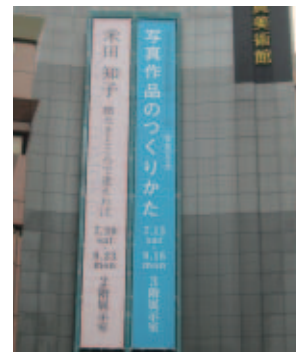
での記事掲載対応の他、取材依頼、撮影・収録・などをおこなった。すべての展覧会に英語プレスリリースを用意した。媒体の特性に適した告知を心がけ、特にインターネット媒体では、イベント告知の強化や、開催直後の展示取材の獲得を目的に、速報的な話題提供を実践した。

4 チラシ・ポスターの配布

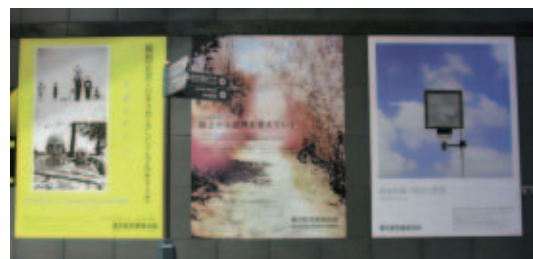
マスコミ、美術館、写真、教育関係など各所にチラシ・ポスター等の掲出物を送付。展覧会毎にターゲットを絞った配布先を増やし、配架を強化した（各回約300件）。

5 懸垂幕、壁面スペースへの掲出

JR恵比寿駅側の懸垂幕、壁面スペースへの掲出や、恵比寿ガーデンタワー側の巨大写真掲出および縦位置壁面スペース（3枚）の利用で、写真美術館の活動やイメージを発信した。



懸垂幕掲出例



館ディスプレイシート（巨大写真）掲出例

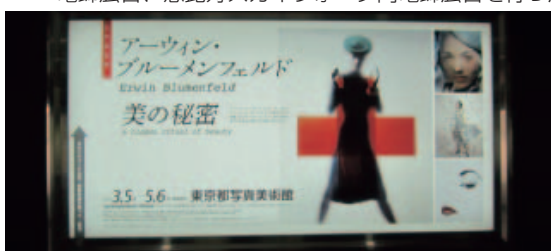


縦位置壁面スペース掲出例

6 広告スペースへの掲出

(1) 交通広告 (年契分)

年間を通じて首都圏JR・地下鉄の窓上広告、JR恵比寿駅東口改札内柱広告、恵比寿スカイウォーク入口電飾広告、恵比寿スカイウォーク内電飾広告を行った。



恵比寿スカイウォーク内電飾広告掲載例

(2) 交通広告 (年契以外)

年契以外に展覧会B1ポスターを掲出した。ターゲットが似ていると思われる主要美術館付近での露出を増やすことで、効果的な集客を目指した。(「展覧会名」、掲載駅、掲載期間)

- (ア)「日本写真の1968」、「写真のエステ展」
六本木 5/26～6/1、初台 6/3～6/16)
- (イ)「写真のエステ展」、「米田知子 暗なきところで逢えれば」
六本木 (2ヶ所) 8/12～8/18、東京8/5～8/11、
乃木坂 (2ヶ所) 8/7～9/3、8/5～8/11、竹橋
7/24～7/30、初台8/5～8/11
- (ウ)「黒部と槍 冠松次郎と穂苅三寿雄」
表参道3/19～3/25、銀座3/19～3/25、東京3/17
～3/23、乃木坂3/17～3/23、神保町3/17～3/23

(3) 広告掲出

展覧会やイベントを広く告知するために広告を掲載した。新聞広告、ネット広告の掲出は以下のとおり。

- (ア)「写真のエステ」
朝日新聞夕刊アート欄下半5段 (210万部)
平成25年5月8日(水)
- (イ)「日本写真の1968」
CINRA.NET ニュース掲載／取材特集ページ／
twitter 平成25年5月29日(水)～
朝日新聞折り込み広告「定年時代」(125万部)
モノクロ1/12平成25年 6月3日(月)
- (ウ)「米田知子 暗なきところで逢えれば」
朝日新聞夕刊アート欄下半5段 (210万部)
平成25年7月24日(水)

(エ)「夜間開館延長告知」

朝日新聞夕刊アート欄下半5段 (210万部)
平成25年8月21日(水)

(オ)「須田一政 凧の片」

朝日新聞夕刊アート欄下半5段 (210万部)
平成25年9月25日(水)
産経デジタルプレミアパネル
平成25年10月25日(金)～31日(木)
CINRA.NET ニュース掲載／取材特集ページ
平成25年10月15日(火)～

(カ)「植田正治とジャック・アンリ・ラルティエーグー写真であそぶ」

朝日新聞夕刊アート欄下半5段 (210万部)
平成25年11月20日(水)
Google、yahoo!リスティング広告
平成25年12月14日(土)～

(キ)「高谷史郎 明るい部屋」

朝日新聞夕刊アート欄下半5段 (210万部)
平成25年12月11日(水)
CINRA.NET ニュース掲載／取材特集ページ
平成25年12月10日(火)～

(ク)「お正月特別開館」

朝日新聞朝刊5段1/4 (記事下) (380万部)
平成25年12月31日(火)
読売新聞朝刊5段1/4 (記事下) (540万部)
平成25年12月31日(火)

(ケ)「日本の新進作家vol.12 路上から世界を変えていく」

東京新聞朝刊記事下全5段 (54万部)
平成25年12月5日(木)
東京新聞朝刊記事下全5段 (54万部)
平成25年12月19日(木)
東京新聞朝刊記事下全5段 (54万部)
平成26年1月1日(水・祝)

(コ)「黒部と槍 冠松次郎と穂苅三寿雄」

朝日新聞夕刊アート欄下半5段 (210万部)
平成26年3月5日(水)

(サ)「没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖」

朝日新聞夕刊アート欄下半5段 (210万部)
平成26年3月5日(水)
読売新聞夕刊ラテ欄下全10段 (211万部)
平成26年3月11日(火)



「写真のエステ」5/8掲載広告



「夜間開館延長告知」8/21掲載広告



「日本の新進作家vol.12 路上から世界を変えていく」12/5掲載広告



CINRA.NET「高谷史郎」掲載ページ

7 記者懇談会の実施

(1) 記者懇談会①

平成25年6月12日(水) 16:00~19:00

出席者数：14社20名

<主なプログラム>

【第1部】1階創作室

平成24年度事業実績報告（第5回恵比寿映像祭実績報告を含む）

平成25年度事業計画の紹介

平成25年度企画展の紹介（各担当学芸員による説明）

【第2部】4階会議室

懇親会

(2) 記者懇談会②

平成26年1月16日(木) 16:00~19:00

出席者数：19社27名

<主なプログラム>

【第1部】1階創作室

平成24年度事業外部評価の報告

平成25年度事業実績（12月末現在）ほか

平成26年度企画展の紹介

平成25年度新規収蔵作品の紹介

改修工事の概要

【第2部】2階作業室・3階作業室

平成25年度新規収蔵作品の見見

懇親会（4階会議室）



懇談会の様子



4階会議室での懇親会

作品見

8 プレス向けギャラリーツアーの実施

すべての収蔵展および自主企画展について、特別鑑賞会と同日（特別鑑賞会がない場合は展覧会初日前日）に、プレス向けギャラリーツアーを開催。学芸員と作家自身による展覧会説明を積極的に行った。（全9回、12展）



「米田知子」展プレスツアー



「須田一政」展プレスツアー

9 セット券販売促進キャンペーンの実施（1回）

夜間開館延長と夏休み期間に合わせて、企画展と収蔵展の両方の観覧をお薦めする「なつしゃび」キャンペーンを実施した。従来の「セット券」「チョイス券」をPRするとともに、見やすい料金表や入口付近のPOPを制作し、来館者が写美をゆっくりと楽しむ雰囲気づくりを心がけた。

実施日：8月10日（土）～9月16日（月・祝）



「なつしゃび」キャンペーン料金表



「なつしゃび」キャンペーンチラシ

10 年始特別開館

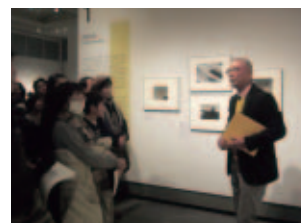
平成26年の正月特別開館では、1月2日は入場無料、3日は割引料金を設定した。期間中（1月2日～3日）は、特別フロアレクチャーや雅楽コンサート、プレゼントなどを用意し、来館者が一日をとおして美術館で楽しく過ごせる工夫をした。



お正月開館風景 1/2（しゃび雅楽）



お正月開館風景 1/2
（おめでとう写美クイズ）



お正月開館風景 1/3
（「植田・ラルティエグ」展レクチャー）

11 広報誌別冊「nya-eyes（ニアイズ）」vol.28～vol.39発行

月刊、発行部数：各号30,000部

展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として「nya-eyes」（ニアイズ）を刊行。漫画「クレムリン」（カレー沢薫、講談社）の漫画とコラボレーションし、新しい来館者層を開拓した。



ニアイズ表紙

12 「楽しみ方」の提案

(1) 2階ラウンジの活用「ラウンジ1968」

展覧会：「日本写真の1968」

内容：感想ノート、年表を置くとともに、60年代BGMやラムネの自販機販売で、展示の時代感を感じる休憩スペースを作った。



ラウンジ1968



写真のエステ みどころ紹介 ホームページ

(2) ホームページの活用「写真のエステ みどころ紹介」

展覧会：「写真のエステ」

内容：ホームページに担当学芸員のインタビューページを特設し、コレクション作品への思いを紹介し、作品鑑賞の楽しさを演出した。



(3) SNSを使った展開

展覧会：「須田一政 凧の片」

期間：平成25年9月20日(金)～

内容：写美ホームページ内に特設ページを設け、作家インタビューや著名人のコメントのほか、ツイートで展覧会の感想を紹介し盛り上げりを演出した。



須田一政展特設ページ

13 恵比寿地域における連携キャンペーンの実施

「駅から歩くウォークラリー 山手線エリア 恵比寿駅」

実施期間：平成25年10月22日(火)～11月17日(日)

内容：JR恵比寿駅を基点に街の回遊を提案。イベント参加者は団体料金で展覧会観覧できるサービスを提供した

参加施設：東京都写真美術館、山種美術館、國學院大学、旧朝倉家住宅、西郷山公園、菅刈公園、目黒清掃工場、恵比寿ガーデンプレイス

14 リニューアル休館の準備

平成26年度中旬からの休館にあたり、プレスリリースや館ロゴ刷新、20周年史本の編纂、ホームページ改訂などの準備を順次すすめている。